

**KYOTO
DESIGN
CONFERENCE
1985**

みんなで語り合おう

第5回京都デザイン会議

会議録 2001年
京都おもしろ未来

明るい、楽しい、美味しい未来



第五回 京都「アサヒ」会議・会議録

昭和六十年三月二十九日(金)国立京都国際会館二階

二〇〇一年京都おもしろ未来 明るい、楽しい、美味しい未来

開会挨拶

第五回京都デザイン会議実行委員会会長・林大功 実行委員長・柴田誠一 6

講演「予感——私の京都近未来」

10

●京都・二足のワラジ
——デザイナーよ、中世の御師おしたれ！

森谷尅久

●京都のイメージ・チエンジ——京都開国！
●関西コリドールプラン——近畿ルネッサンス！ 江口克彦

米山俊直

「燃えるプレゼンテーション——気分は21世紀」 デザイン関連八団体会員 32

みんなで押せばコワくない

ホンネまるだし京都まる」とスイッチ・オン！

舌戦トーキーショー

コーディネーター 今西 慧

「京都冒険談合——都市としての京都」

清水輝久

竹内 令

40

44

第五回 京都デザイン会議・参加者名簿

第五回 京都デザイン会議・実行委員会構成・名簿及び 主催後援・協賛団体名簿

62

60

開会挨拶

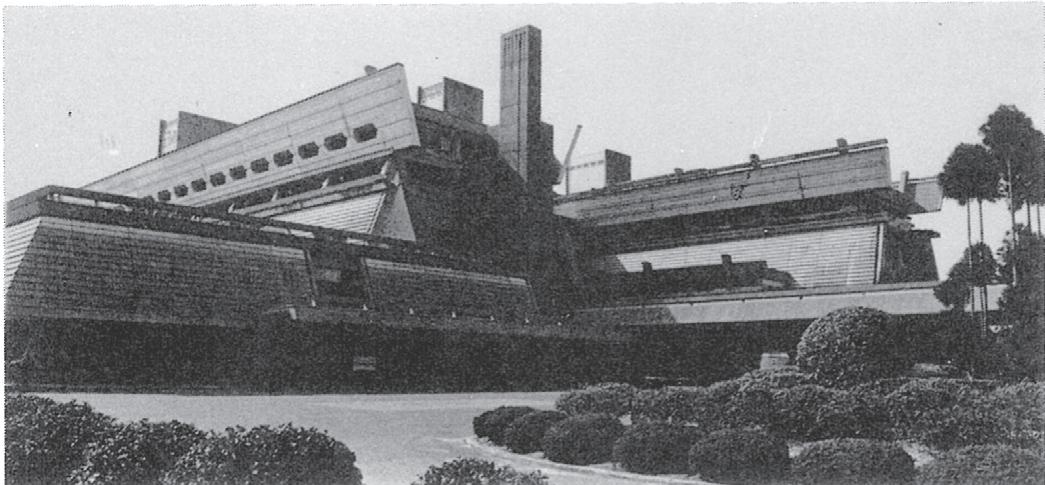
総合司会 嶋 高宏

第五回 京都デザイン会議実行委員会
会長

林 大功

第五回 京都デザイン会議実行委員会
実行委員長

柴田 献一



第五回京都デザイン会議・会場となった宝ヶ池の(財)国立京都国際会館。設計、大谷幸夫。設立、昭和41年。

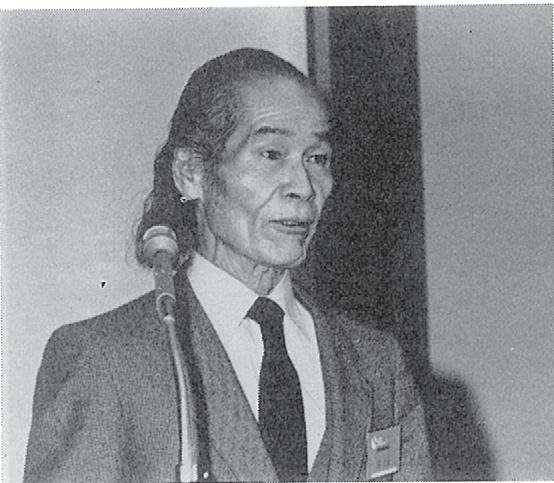
嶋 おはようございます。少し時間がおくれまし
たけれども、「二〇〇一年・京都おもしろ未来夢
カレンダー」にもとづく第五回京都デザイン会議
を開催いたします。映画の方はすでに二〇一〇年
（「二〇一〇年宇宙の旅」）ということで、九年
ほどおくれておりますが。

先程ロビーで、あるデザイナーの方がこうして
京都国際会議場で会議ができるなんてたいしたもの
のだということをおっしゃっておりました。デザ
イナーがこのような所で会議ができることがたい

したことなのか、そのあたりはよくわかりません
が、とりあえずこういう立派な所で司会ができる
ことを、非常にうれしく思っております。
きょう総合司会をやらせていただきます嶋でござ
ります。どうぞよろしくお願ひいたします（拍
手）。

それでは第五回京都デザイン会議を開催いたし
ます。

最初に、京都のデザイン界の長老、こういう会
議にはなくてはならない人、林大功会長から御挨



林大功氏。恒例の「おはようございます」から会議は始まった。

拶いただきたいと思います。

林 おはようございます（拍手）。デザイン会議といういつもはりきるという一つの風習がございます。どうも皆さんおはようございます。

応答がないようございます。おはようございます。（会場から「おはようございます」の声）。

私達デザイン八団体が寄り集まり、京都をどう考えてゆくかというような、空想論の会合をもち始めたのが、ちょうど五年前でございます。

このたび第五回のデザイン会議を催すことになりました。本日は皆さん、本当に早朝から集まつていただきまして、どうもありがとうございます。とくに、大阪、神戸のご来客の方につきましては、遠路のところをはるばるきていただきましてほんとうにありがとうございます。

先程の紹介の中にもございましたが、デザイン界がこのような立派な会場を使うというのは当たり前のことでございまして、これから社会、これから的人生観というものを、この会議を通じまして考えて、そして未来に向って大きく羽ばたいてゆく、このような基本的な考え方を打ち出すのにふさわしい会場ではないか、とむしろ思うのであります。

一昨年、昨年と、京都国際工芸センターで車座の会合をやりました。無責任の放言というような形で会議を進めてみました。やっぱり車座は車座の発言というご批判もありましたが、それはそれなりの対話を持ったと思います。しかし、今日、この第五回デザイン会議は五年という歳月、この歳月をふまえ、次の時代に向って大きく羽ばたき、

新しい次元づくりに励むという時代にさしかかっていると思います。とくに現在は、地球を核とするような宇宙観の中で、我々は何を果してゆけるのか、デザイン界は何をもって自分達の世界を拡げてゆくのか、というような問題に直面する、非常にさせました、きびしい時代にあると思つております。

そこで、皆さんとともに、この会合を一起点としまして明日に向ってお互いが努力をして参りました、このように考えております。

昨年には、国体のスローガンが発表されました。「新しい歴史に向って走ろう」というものです。京都におられる方々、次の時代を担つてゆく方々が大きく一丸となって国体を盛り上げてゆこう、そしてこの中でこそ、京都の未来と歴史が生まれてゆくだろうという鋭い標語です。

このスローガンをもちまして、開会の挨拶にかえさせていただきたいと思います。

嶋 続きまして、柴田献一委員長からご挨拶、お願いいたします。

柴田 皆さん、こんにちは。本日は、たいへん良いお天気に恵まれまして、大勢お集まりいただきました。ありがとうございます。

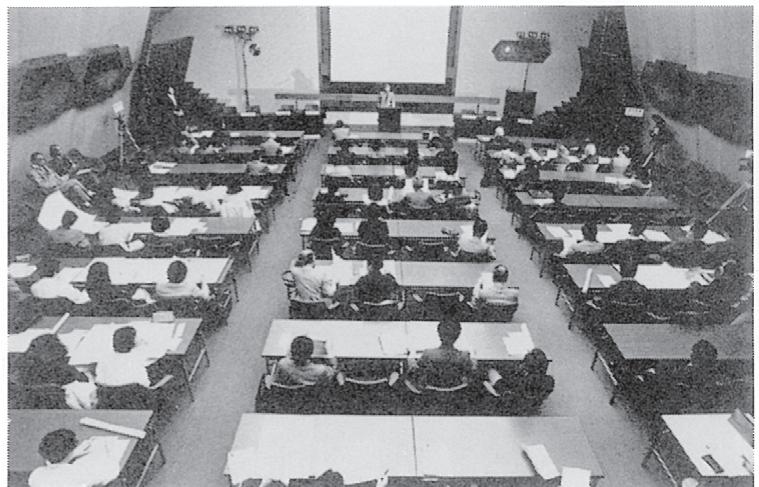
じつは、振り返ってみますと、この会議はちょうど一九八〇年に第一回が行われまして、京都会館、伝統産業会館など岡崎で催されました。今から振り返ってみると、当時一番大きな目玉であったことが、一九九四年建都千二百年というビル・イベントが京都で予定されているということでした。当時の記録にも、そういったディスカッ

ションが大いになされたことが載っています。

その当時ですと、あと十四年もあり、ずいぶん先のことだなという感じでいろいろ議論が出たんですが、その時点ではなんとか盛り上げようという意志を確認しただけでした。今回二十一世紀シリーズという形で進めてまいりましたデザイン會議も、あれから五年たちまして建都千二百年まであと九年、一桁です。そうしますと、現実に起ころ建都千二百年に何らかの形で参加してゆかねばならないだろうと、実感として迫って参りました。現に今、林大功先生がおっしゃったように国体でさえあと四年で、すでに昨日推進委員会が設立されて総会が催されています。としますと、さらに大きなイベントとしての建都千二百年ということがになりますと、当然実行部隊は五年前には発足するだろうし、それまでにあと四年しかないということになりますと、いよいよ我々は具体的にビッグ・イベントにアテンダントする、参加せざるを得ないということになります。我々モノ作りの人間にとって、あした、あさつての非常に身近な問題になってくるわけで、いつかくるだろうというわけにはいかない年に入ったと思います。

と同時に、もっと具体的に考えますと、建都千二百年という京都にとってのビッグ・イベントそのものが、二十一世紀に対してどのような働きをするのか、そのイベントによって二十一世紀の展望がどのように継続的にリエゾンしてゆくのかといふ意志・計画・実行の問題になると思います。

そこで、単なる千二百年という節目だけではなくて、二〇〇一年、二〇一〇年と続いてゆく、歴



会議場風景。朝10時15分、デザイナー達は、仕事を放って(?)「遊びまショー」

史の新しい頁となるんじゃないか、という認識で皆さんにご案内した「おもしろカレンダー」を作成してみたのです。これは日おくりカレンダーをまねして、年おくりカレンダーという形をとってみました。ある日これを見て一人の委員の方が、「私は二〇〇一年までたった十七回しかおぞうに食べられない」とおっしゃいました。十七年といいますと抽象的な感じしますが、十七回しかおぞうに食べられないと思うことは、もうすぐに未来の時間が現実の生活感の中でとらえられているということだと思います。実際、一回一回のおぞうにをどういう風にして食べようかという思いが、このカレンダーを見ていて、してくるんじゃないかと思うのです。

そこで、きょうは皆さんの十七年間の生活設計、あるいは団体の計画や社会計画というものを、自らの手でもって参加しながら作ってゆくという形でプログラムを組んでございます。

午前中のご講演は、一応基調講演になるような形で、三人の先生方にお願いしております。

午後の「燃えるプレゼンテーション—気分は二十一世紀」これには京都府の染織工芸課長さん、京都市からは伝統工芸課長さんといった行政の方も、あるいは財界人の方も、デザイナーの方も、そして一般の方も、市民として参加していただきで行なわれます。こういったことでかなり大勢の方がこの会場で、参加者として一言発言できるようと考えております。

それ以外に、「スイッチ・オン」というものがございます。よくテレビでやっていますのでご存



柴田献一氏。「やるっきゃない！」でまずはスタートです。

知だと思いますが、京都では隠れた意見、隠れたアイデアを出しあわないでポケットに入れたままであることが多いので、こういう形式を使いまして本音を引き出してみようと思っています。まだ案内はしていませんけれども、楽しい質問を用意しております。「燃える・プレゼンテーション」に出られない方に、百人出席していただけるように企画が設計してありますので、ほとんど全員がなんらかの形でこの会議にその意見を投影できます。どうぞお楽しみください。

余談になりますが、こういった航空母艦のようないかめしい形の建物ですと、ちょっととかたくなのがちだと思いますので、私なりのきょうのスローガンとして一言申し上げたいと思います。

この間喫茶店に入りましたら、十七歳位のかわいこちゃんが前掛けをして、お盆にコーヒーとモーニングサービスの玉子を一つ付けてまいりました。その後彼女の前掛けをチラッと見ましたところ、「やるっきゃない」と書いてありました。このジヨークは男性にしか通じないかもしませんが、いずれにしても若い子がその労働着に「やるっきゃない」と書いて働いている姿を見まして、僕は今の若い人といえども決してぐうたらに暮していのではないのではないか、と思いました。そういった自分のアイデンティティになるようなところで、「やるっきゃない」と言っているのであれ

ば、希望が持てるのではないかと考えますので、本日長丁場になると思いますが、僕達も頑張つて行きましょう。一応かたいテーマとしては二〇〇一年を考えようということになっていますが、本年からは皆さんで「やるっきゃない」という意気込みで会議に参加していただき、今後のご活動もその精神でやっていただけたらと思いますので、どのセッションも「やるっきゃない」「出るっきゃない」という形で、熱心に楽しんでいただきたいと思います。以上でございます。

皆さん、ほんとうによくいらっしゃいました。ありがとうございました（拍手）。

嶋 今、委員長からおおむねきょうの全貌は聞いていただきましたが、委員長はご存知であったかどうかわかりませんが、「やるっきゃない」という冗談は男性だけではなく女性の方々にも当然わかっていらっしゃると思います。委員長に代つて女性の方々に謝罪いたします（笑）。

それでは基調講演「予感—私の京都近未来」ということで、「京都二足のワラジ」というテーマで、京都市歴史資料館館長、森谷尅久さんからご講演をいただきます。

森谷尅久さんです（拍手）。

講演

「予感——私の京都近未来」

●京都・二足のワラジ

——デザイナーよ、中世の御^おし師^したれ！

京都市歴史資料館館長
社会文化史

森谷尅久

●京都のイメージ・チエンジ

——京都開国！

京都大学教養部教授
文化人類学

米山俊直

●関西コリドールプラン

——近畿ルネッサンス！

PHP研究所専務取締役

江口克彦

京都・二足のワラジ

——デザイナーよ、中世の御^おし師^したれ！

森谷尅久

中世の宣伝マン——御師の活躍

第五回デザイン会議、お目出度うございます。

朝はどうも声が悪くて、顔はいいのですが（笑）、徐々に回復致しますので、しばらくご容赦願いまして、今日のテーマ「京都の未来——明るい、楽しい、美味しい未来」について、私なりの意見を述べさせて頂きたいと存じます。

建都千二百年もいよいよ、後九年という射程距離に入つて参りました。私は今から十一年前、つまり建都千二百年の二十年前に建都千二百年についての論文を書きましたが、今、もう、手の届くところへ、それがやつて参りましたので、改めて、「建都千二百年」を考えて、京都の蘇生を計らなければ、と思っております。

私は歴史家ですので、歴史を振り返らなければ物事が始まりません。そこで今、建都千二百年を軸に京都の近未来を見ていこうと思うのですが、その前にその「建都」の年、京都が、政治都市、キャピタルとなつた七九四年、延暦十三年から、ザツと、古都・京都の成立を辿つてみたいと思ひます。

七九四年、平安京が成立致します。権力の中枢都市としての出発です。これはほぼ三百年、厳密には百年続きます。しかし、この政治都市としての京都は、どうもあやうい存在でした。单一の価値で売り出すのは、あたかも片肺機構のようで、次第、次第に先細りしてゆきました。御承知のように、平安京の西半分は湿地という惡条件によつて、失われてゆきます。政治都市・京都は、やつと東半分で生き残りました。

ここで私は「二足のワラジ」ということを提案

したいと思います。京都というのは一つの価値だけではダメなのです。二つ、或いはそれ以上の価値をもつて、売り出さなくてはなりません。但し、一つの価値として、キャピタルということは手離すことの出来ない重要な京都の価値です。京都が二足のワラジをまず履き始めるのは、十二世紀、鎌倉政権が成立する時です。中世の開幕とともに、京都二足のワラジが始まります。京都はもうキャピタルとしてだけではもたなくなつたのです。

平安京の頃は都市の真ん中に原則として、東寺、西寺以外、お寺を作りませんでした。こう言いますと、みなさんから「六角堂があつたではないか」と反論を受けそうですが、六角堂は寺ではなくて、町堂、お堂なのです。市中に本格的に“寺”が出来るのは、実は鎌倉時代になつてからなのです。もちろん、平安京の周辺にはお寺はありました。しかし、洛中にはなかつた。總本山の本山という言葉が出来るのは江戸時代、或いは室町時代以降のことです。

鎌倉時代になつて、洛中にお寺が出来、宗教活動が活発化すると、京都は活気を取り戻します。当時においては先端的なデザイン活動が展開されます。宗教活動というのは極めて優れた宣伝活動であります。宗教を流布するために、御師と呼ばれた宣伝マンが全国へ散つて行きます。彼等は寺の「縁起」を携えて情報活動を行いました。この「縁起」というものは、詞章と絵によって構成された紙芝居みたいなものですが、当時の一流の書家、絵師によって作られた非常に優れた芸術



森谷尭久氏。現代の京都を「中世」の視座で展開。

作品でもあります。今は国宝となっております、『北野天神縁起絵巻』などもそういう宣伝活動のために作られたものです。御師の活躍は注目すべきものがあります。それは単に宗教活動とばかりは言えないものです。彼等は全国を回り、京都から、文化情報を発信させて、地方の人々を京都に向かわせたのです。いろんな人が京都にやって参りました。信仰を目指す者、学問を志す者、また商人達が、京へ京へとやって参りました。そこで京都は政治都市の性格を「御所」という存在でしっかりと保ちつつ、宗教文化都市、商工業都市とう、二足、いや三足のワラジを履くことになったのです。

しかし、やっと乗り越えた危機も、応仁・文明の乱（一四六七～一四七七）の十一年間の戦乱によつて、京都は新たな危機に見舞われます。しかし、ここが京都の逞しさなのですが、十一年間の大乱が鎮まるごとに、各地に散つていた人々は京都に帰つて來たのです。ヨーロッパや中国の歴史にはあり得ない現象です。戦火とともに首都は放棄される。これが普通一般の歴史の姿です。ところが日本のキャピタルは戦火で荒野と化したにも拘らず、滋賀県の坂本、大津、大阪の堺、天王寺などに逃げびていた町衆がぞくぞくと、帰つて來た。これ等の人達はその落ちのびた地方に京都の文化産業を植え付けるという功績も果してきました。

ところで、町衆達はどうして、焼け野原に舞い戻つて來たのでしょうか。それは「御所」があつたからです。天皇が逃げなかつたからです。当時は

御所といつても現在のように広大なものではありません。たつた三千坪の土地でした。そこに天皇は、ほんとうはとても恐かったのでしょうか、とりあえず、逃げずにいたのです。そうすると人々は帰つて來た。

伝統的なシンボルが存在していたということは「京都」を考えるうえで外すことの出来ない要です。そして京都が昔日の姿を取り戻すうえで、もう一つ外すことの出来ない存在があります。それは戦国武将です。彼等は先端的技術を京へもたらします。戦国時代というと、戦さばかりの殺伐とした時代を思い浮かべますが、文化的にも、科学的にも非常に発達した時代でした。復興には百年かかりましたが、この百年の間に、政治都市としての伝統に先端技術が付加され、京都の二足のワラジは強化されます。このことはみなさんご承知の西陣の例を挙げるだけでもお解り頂けると思います。

戦国武将の中でも、特に秀吉の存在は大きいものでした。京都を救つた大恩人です。彼は京都を“都市”として形作りました。都市とは文化情報の集積地です。

江戸時代、確かに政治権力は江戸に行つてしましました。しかし、江戸は政治首都としてのみあらばかりで、都市としての機能は京都がその中心をなしていました。江戸時代最大の産業都市として京都は発展し続けます。因に、大阪は流通都市として独自の発達を遂げてゆきます。

明治の大改造——都市の誕生を祝う

明治維新を迎えて、また京都は三度目の大きな危機にぶつかります。中心としてのシンボル、天皇さんが居なくなってしまうという事態です。これは大変なことです。肝心要の天皇が不在とうことになると、京都二足のワラジは成立致しません。

京の人々は御所を取り巻いて、今でいうところのデモ行進、当時は「お千度参り」と言っておりましたが、それを毎日行いました。しかし、このシンボルの移動は留めることができませんでした。

明治十年代、京都はすっかりとさびれてしましました。御所も明治十六年頃には狐狸の住み家と化してしまいます。みなさんは御所と申しますと、天皇とお公家さんが住んでいた所とお思いでしょうが、かつては御所には土壙というものが多く、たくさんの町家が今、公園になっています所になりました。とても賑やかな所だった訳です。それが、天皇が東京へ行くことになつて、公家も命令によつてついてゆかなくてはならなくなつて、京都の中心はスッポンポンになつてしましました。中心にエアー・ポケット、空洞がぽっかりと空いてしまつたのです。およそ三割ほどの人口減となり、京都の人々は「奈良の衰微」と同じような現象が起るのではないかと危惧致しました。

この「京都の衰微」をハネのけるために建都百年という企画が打ち出されます。私はこの「建都」というのは大変なアイデアだと思うんですね。

この発想は一体、誰が、どこから引き出して来たのかよく分からぬのですけれども、我が国においては、都市の誕生を祝うという習慣は全くなかつた。そもそも人間の誕生を祝うという習慣が日本文化にはなかつたのです。それが、誰が考えたのか、この京都の最大の危機を前にして、建都千年という、前代未聞のアイデアが湧出した。これはほんとうにスゴイことだと思います。日本には亡くなつた年月を「偲ぶ」という考えはあったのですが、没後何年というあれですね、「誕生日」という考え方はあるつきりなかつた。そこに突如、明治二十五年、建都千百年、「平安奠都記念祭」を挙行することになり、明治二十八年（一八九五）がその年に当たるのですが、二十八年に向けて、平安神宮建設などの事業が組まれてゆきます。また、並行して「第四回内国勧業博」の誘致も行われ、これを成功させます。

京都の情報都市としてのイノベーション（変革）が大危機に際して始まつたのです。しかし、明治二十八年はまだ「これから」という年でした。京都の真の大改造は明治三十八年から始まります。それは今日、想像を絶するような大改造でした。この大改造の立役者が、西郷隆盛の息子の西郷菊次郎、京都の二代目市長です。西郷市長は明治三十七年十月から四十四年七月の七年間、在任しますが、この間、彼は三つの大事業を為します。それは、第二琵琶湖疏水事業と水道事業、それと道路拡築並びに電気軌道敷設事業。この事業のた

めに総額、千七百万円という莫大な予算が組まれます。普通百万円位が通常の予算ですから、いかに大きな金額だったかお分かり頂けると思いますが、現在のお金に換算して二千億円、実際の価値としては七兆円位の予算なんです。この大改造は彼が市長を辞した後も継続され、大正、三、四年頃まで続きます。ヨーロッパの先端技術を取り入れてのイノベーションが、西郷菊次郎という人物によって行なわれたのです。

そして、大正三年秋の御大典記念事業と、京のイノベーションは続きます。しかも京都はちゃんと二足のワラジを履いていたのです。天皇という存在を失って、空洞となつたと思われた京都の伝統の部分を“古都”という意識で保つ訳です。古都の価値を残しながら近代化を図る、西陣のジャガードも、染色に化学染料を導入したもの、やはり二足のワラジの結果なのです。町並みも烏丸通り、丸太町通り、今出川通り、河原町通りの整備拡張によって、現在の原型が出来上がり、都市としてのデザインが都市機能をますます充実させてゆき、しかも元の形を壊さずに、平安京の面影を残してのイノベーションなのです。こういうところに我々は伝統の力を見る訳です。

古都の価値を全面に押し出しつつ、一つ一つイノベーションを行つてゆく。これはもう京都人の智恵という他ありません。こうやって二足のワラジを器用に履きこなして、京都はアイデンティティを今日まで失わずに来たのです。

それから百年——現在の京都は新たな危機を迎えていました。しかし、明治のあの頃に比べると、

私達には、実感としての危機感がありません。これは一つには戦争で焼けなかつたことが大きいと思います。大都市がことごとく崩壊した中で、“古都”は生き残つたのです。

応仁・文明の乱、遷都を京都が乗り切つたのはその危機が大きかつたということもある種のエネルギーを生む要因になつてゐるのです。マイナス要因があつてこそ、プラスへと移行する力は強くなります。しかし、“古都”は生き残つた。確かに京都二足のワラジのエネルギーとして古都の顔は必要です。これを守つてゆかねばなりません。しかし、今、京都は中世が持ち得た、商工業都市、宗教文化都市のような、もう一つの価値を持つてゐるでしょうか。明治のあのイノベーションを具現化してゐるでしょうか。残念ながら、例えば、車社会に対応してゆくことが出来ないなど、時代の先端を行つたかつての京都のエネルギーを現在の京都はよう持ち得ないというのが現状です。中世の商工業都市としての性格も、宗教文化都市としての位置付けも、今は“伝統”という“古都”という価値へと吸収されてしまつています。このままでは京都は平安京の片肺機構に舞い戻ってしまいます。自然崩壊してしまいます。最早、二十一世紀の子孫に残すべきものは、この京都は何もなくなる、というのが、建都一千二百年を九年後に控えた今の京都の姿なのです。

そこで私は、もう一度、京都は二足のワラジを履く必要があると考えるのです。单一の価値ではなく、二つ、三つ、或いは五つの価値で京都を再び売らなくてはなりません。

ザッと京都の歴史を振り返りまして私が思いましたのは、京都は都市であるということ、そして、都市はいつも新鮮な情報を発信させる基地であること、こう思うのです。しかも新生京都は、あくまでも伝統、我が日本が持たなくてはならない人類の財産としての『古都』の顔を失ってはならないと考えます。

ニユー・キヨウト・シティ——都市をデザインする

京都は北高南低の地形です。京都の文化も地形に応えるように北高南低です。北の方には文化施設、産業都市としての性格が集中してありますが、南、九条通り以降は、塵芥処理場しか出来ない。開発の話が出ても、「環境が悪いから、工業団地でも置きましょうか」ということになる。これで京都の再生は図れません。確かに地形的な宿命は大きいと思いますが、こうやって、京都にはデザイナーのみさんが各分野で頑張っている。この力を結集させて、というより、私はデザイナーは都市のデザイナーでなくてはならないと思っているのですが、デザイナーのみさんにも私は二足のワラジを履いて頂きたいと思っています。工業デザイナーだけではない、伝統的な漆芸を守つてゆくだけでもない、都市というトータルなデザインをぜひ、行って頂きたい。一つの価値は守れるけれども、もう一つの価値を創造することは出来ないというのではもう通用しない時代だと思います。堂々と二足のワラジを履きましょう。五足でもよろしい。あのルネッサンス時代の万能

私のこのような考え方を称して、ある人が「ツイン・シティ」ということを言ってくれました。双生児都市ということです。例えば、フランスで言えば、旧パリとヌーベルパリが、インドで言えば、オールドデリーとニューデリーという考え方を通じる「ツイン・シティ」。

人間を、今、京都は欲しています。ぜひ、みんなの才能を「ニュー・キヨート・シティ」につぎ込んで頂きたい。この六月（一九八五年六月）には、「建都千二百年協会」が出発します。全日本の価値を持つ都市として、京都を甦らせるためにみなさんの力が必要です。今、京都は京都の外の人達から熱い眼差しで見つめられています。「京都は何かやるぞ」と注目されています。

まだ九条以南の開発から「ニュー・キヨート・シティ」は始まるのではないかと私は考えています。そこには、産業がなくてはいけません。そして都市としての情報の発信場としての機能、装置を持たなくてはなりません。

中世の御師が行なった宗教文化活動は、同時に商工業活動もありました。御師もまた二足、三足のワラジを履くものでした。そんな風に、デザイナーのみさんも、大いに外へ出て頂き、そして京へ新しい風を持って来て頂きたい。外の人々を集めて頂きたい。京へ、京へと文化が、産業が、人々がやって来る、それこそが、都市としての京

都の在り方です。古都は伝統の中に眠る存在ではないのです。千二百年の歴史は深く、京都という都市の存在を支えてきました。そして今も支えてあります。

建都十二百年——私たちは京都という都市の誕生を祝うために、この都市をもつともつと育て上げねばなりません。

二足のワラジを履きましょう。堂々と三足、五足、履きましょう。ツイン・シティいいじゃないですか。単一の価値としてのオールド・キヨートからの脱皮は、京都の責務です。二十一世紀の子

孫のために、日本の文化のためにそれは必要なのです。京都は都市です。情報を発信させるセンターです（拍手）。

嶋 続きまして、京都大学教養部教授、米山俊直さんから、「京都のイメージ・チェンジ」ということでお話をいただきます。米山さん、よろしくお願ひいたします。

米山俊直さんです（拍手）。

京都のイメージ・チェンジ ——京都開国！

京都市に女性市長誕生！——一九九七年・夢力レンダー

米山 きょうはわざわざお招きいただきましてありがとうございます。三十分ということですので、大急ぎで私の予感をお話ししてみたいと思います。

昨年、伝統工芸博（「国際伝統工芸博・京都」）が行なわれまして、皆さんの中にはご関係になつた方々もたくさんいらっしゃると思います。私は

京都市の委託でこの工芸博の調査をさせていただきました。六回、四千人近い人のアンケートを集め、それを分析し、今度のイベントがどの程度の経済効果を生んだかという推計を、コンピューターを駆使してやっています。

この結果については後に公表されますが、大雑

把に言ってとにかくかなり大きな効果があったようあります。調査の過程で発見された伝統工芸博の効果として、次のことがまずあげられます。「今までそれが分野の人々が、それぞれの業界、セクションでやっていたのが、この工芸博を契機として、横断的にお互い知り合いになれた、これが大きなメリットです」ということを何人の方でおっしゃっていました。ほんとうにそうだと思います。

これまで、織は織、染は染というように、それぞれの業界がそれぞれのエゴイズムで動いてしまうということがあります。それが横断的にお互い協力してやればおもしろいことができそうだ、という一つの素地ができた。そういう意味での相互交流が可能となつたのが一番大きな成果ではないか。そしてこのようなことが次々に起らなければ、京都が再生してゆくのはむずかしいのではないかと思われます。

仕掛け人の堺屋太一さんのいう「イベント・オリエンティッド・ポリシー」という考え方を、他の人も言っているということで馬鹿にしないで、素直に受け止めてやってゆくことも必要だと思います。

現実に儲かるかどうかということではなくて、六十日間のことではありましたけれど、実際大きな成果があったということをまず知つておいていただきたい。

きょうは「二〇〇一年京都おもしろ未来夢カレンダー」というものをもとにして、議論しようということで、それを見せていただいたのですが、昭和六三年、京都国体というような既定のことものっていますし、建都千二百年も動かせない事実としてあります。

それ以外に非常におもしろいことが書いてございまして、非常に楽しく拝見していましたのですが、一番おもしろいと思いましたのは、昭和七二年のところで、KDAの欄に、京都に女性の市長が誕生するというところです。これは大変結構なことです。また、その前に、京大にデザイン経済学部設置というのもあり、ここもおもしろい。しかしさらに一九九七年に女性の市長誕生ということを、もう十年早くしていただきて、今度の京都市長選の時に、女性の市長候補を担ぎ出すという位のエネルギーを發揮して、「やるっきゃない」の精神で、できれば京都デザイン会議あたりが先導してやっていただいたらいいんじゃないかという気がして参りました。

今の市長さんが決して悪い人というんじゃないのですが、お寺さんなどにオタオタしてあまり迫力ありませんから、サツチャヤーさんのような女性の市長さんを実現したら素晴らしいんじゃないかと思いました。

文化化、女性化、老齢化、成熟化——「化」の言葉の裏に潜む状況へ！

さて、今私はいろいろなことに関わっています。

関西では、近畿圏の整備計画、長期総合整備計画、



米山俊直氏。「国際伝統工芸博・京都」を踏まえて実際論を展開。

スバルプランという名の計画に関わっています。

この計画は二〇二五年を目標として立てられています。座長は京大経済研究所所長の馬場正雄先生なので、京都と割合関係があるのでですが、二〇二五年というのは昭和百年なんです。二〇〇〇年、二十一世紀といつてもだいぶ先のような感じがしますので、ましてや二〇二五年といえば、全くの夢物語と考えられる方が多いかもしれません。しかし、国全体の動きを決める国土計画のようなものは、きちんと押えておくべきだと私は思います。それは、夢物語ではなく、具体的な計画として捉えられるべきものとしてあるのです。例えば、道路はこういうふうに付けるべきであるとか、鉄道はどういうふうに敷くべきであるか、という問題から、それこそ防衛問題や国際関係の問題まで、あらゆる側面を含めて考えてゆかなければいけないと考えます。また、そう考える人達がいるからこそ、二〇二五年という計画がスタートしているものと考えます。この計画は、もう一年ありますて、来年末あたりに一応の結論がでることになってしまいます。その中でよく言われるには、情報化社会、つまり、ハイ・テク、コンピューターから始まってNTTの民営化、通信衛星の打ち上げに到る、情報化ということあります。

○○化ということはよく言われますが、例えば、

文化化という言葉があります。これほど馬鹿げた言葉もありません。京都のような文化のある所を文化化しようとしても、やりようがないじゃありませんか。中央官庁などは、下々のものは皆無知で蒙昧だから、文化をつけてやらねばいかんと考え

ているのでしょうか。そういう姿勢が、文化化などという言葉を生み出すのでしょうか。

これは例えば神奈川県などで、「文化のための一%」ということを実践されています。例えば、橋を付ける時に、予算の一%を装飾に、つまり記念のモニュメントを付けようという、あるいは、高等学校を建設した時に庭に予算の一%を使おうということです。

このようなことは、神奈川県をはじめとして、広島、神戸などでも早くから行なわれています。それが文化化ということなんでしょうが、これはおかしな話です。建物を建ててデザインがないということがあるはずがないのですから。京都の北嵯峨高校など、嵯峨にふさわしいデザインでなければいけないなどということは自明のことです。それを文化化ということで、今、国が考へているようです。まあ考へようによつては、文化のため一%を付けてもらえるようになつたことは、結構なことと言えるのかもしれません。とくに、デザイン関係の人々にとってはよいことでしうが、私には文化化という言葉が、やはり人を馬鹿にしているとしかどうしても思えないのです。

さて、人口全体の老齢化、老人問題もよく言われます。二〇〇〇年位には、これがヨーロッパの水準になると言われています。

これも京都にとってプラスに評価すべきことです。人口全体が老齢化するということは、国の活力が弱まつて、よろしくないという考え方もあるかもしれません、伝統に対する関心を持つ人が相対的に増えると考へることもできますし、

伝統的な芸術と言わないまでも、お茶の飲み方からもろもろのことまで、国民の中でもう一度再評価される契機として、老齢化ということがプラスに働く可能性は充分にあります。

それからもう一つ大問題になっていることは、女性化ということです。

女性市長誕生のこと、昭和六十五年、スリーウーマン時代。女社会はもうすぐです。一九九〇年は女社会ということがカレンダーの世界・日本・関西というところに出ています。

これも、ある意味で、京都にとって非常に結構なことであると思えます。京都はもともと女性的都市と言えるかもしれないのですから。荒々しく、雄々しいものが男性的なものとすれば、やさしく、よく気がついて、根気がよくてという女性的特長が、京都の都市としての特長でもあるのなら、世界や社会が女性化してゆく中で、それは京都にとって結構なことではないでしょうか。これもポジティブなものと考えてよいのではないか。

京都開国！——国際都市・京都としての未来

さて、カレンダーの京都の欄の中に、建都千二百年祭、その下には「国際日本文化研究センター（宝ヶ池）完成予定」とあります。これは実はもう、ゴー・サインが出ておりまして、政府が予算をつけてしまっているのです。これは動き出しきてしまえば、あっという間にできてしまって、おそらく昭和六十九年にはできあがっているものと思われます。場所に関しては、まだ流動的かもし

れませんが、少なくとも、京都でそういうものが生まれることは確かだらうと思われます。これも京都にとっては展開の一つの大きな契機となるのではないかと思われます。もう一つの柱とは、国際化です。

好みと好まざるとにかくわらず、日本人は否応なしに国際社会の中で生きてゆかざるをえない。つまり、貿易をしないでは食ってゆけないといいう

もう一つ、これは経済企画庁が二〇〇〇年の日本ということでやった話の中では、老齢化、情報化とともに、成熟化ということがあげられています。別な言葉で言えば、経済成長が急速に伸びることはなくなり、逆に停滞的になるという状況を意味していることでもあると思います。それを成熟化という言葉で言い直しているのだと思います。これもプラスの要因と考えられます。特にデザイン関係の人にとっては、「衣食たって礼節を知る」といいますか、本当に必要最小限のことは今日の日本人は見事にそれを充足してしまっています。それに付け加えての豊かさがどんどん増え続けて窮屈になる程のものがあふれている。それが今度どのように展開するかと、より良いもの、より洗練されたもの、より精緻なものを求める、ということになると思います。大量生産より一品生産を、という方向に進むことは当然のことじゃないかと思います。ですから、これもポジティブな条件と考えてよいのじやないか。

状況になつてゐるわけですから、そうすると、お得意さんがいてその人達を大事にしなければ日本の存在はありえない、という前提があるわけです。

それを切り捨てるのであれば、ブータンやネパールのようになるしかないのではないでしょか。もっとも、ブータンですら、最近開国に踏み切らざるをえない状況です。

ここまで情報化社会が進んでしまいますと、日本が孤立したままでは不可能です。できとすれば、人口の四分の三を殺してしまわなければならぬ。江戸時代の鎖国は人口三千万人だからできたのであって、一億二千万人の人口が生きてゆくためには、国を開いてゆかねばならないのです。

この間、米議会でハイニツツ上院議員が日本の製品には一律二〇%の関税をかけると言つていました。通過しないとは思いますが、そういう風潮が一方であることは事実です。そこで、そういう人達にも京都に来ていただきて、京都の良さを知つてもらい、日本も決してエコノミックアニマルだけではないということを、説得することも大事だと思います。そういう場所としても、京都といふところは、これから重要な役割を果たす場所になつてゆくと思います。つまり、国際化の問題も、京都にとつては大きな意味をもつというわけです。

私は、祇園祭の持続性、あるいは我々がやつてゐるのだという自覚は、素晴らしいものだと何度も思われました。あの「やるっきやない」といふスローガンがありさえすれば、京都は「落ち目」

の反対「つき目」、つまりつくんじやないか、と思ひます。そして、そのような方向で議論していただければと思います。

ただ、国際化ということで一つ付け加えたいと思います。私達は国際化とすると、すぐパリやニューヨークということを考えてしまいますが、実はそれだけが国際化ということではないのです。東南アジアも実に大きな潜在的マーケットなのです。中国、インド、そして五億人の人口をかかえるアフリカもあります。そういう人々を同じ視野の中に入れていただきて、国際化、そのための開かれた京都を考えていただくこと、それが大事だと思うのです。

京都はどちらかというと、ひどく封建的、おくれた部分があり、それを強調して、京都は貧しいとか、暗いとかいうネガティブなものを押し出すことによって、京都を売つていたことが多少あつたと思うんです。

日本の農村に対するイメージも同じでした。農村というのは、暗く、封建的で、貧乏であり、物言わぬ人達で、因襲にとらわれているというイメージがありました。それはあくまでイメージなんです。「青い鳥、ダイヤモンドを回す」と言いますが、今や日本の農村はむしろ豊かだと言つていいんじゃないでしょうか。自動車も二台ずつ位持つてゐる程で、アメリカと比べても、ひけをとらない様です。みんな、あっけらかんとして、渥美半島あたりからしあわせ京都に遊びに来るというわけです。正に世界を我が掌中に収めていいるという感があります。

同じことは京都でも言えます。例えば、西陣の紅殻格子の裏に、「おかげ隠しの縄暖簾」という言葉があるように、暗いイメージを売り物にしてきたようなところがあると思います。これはこの際、止めた方が良い。より発展的で、かつ、より良いイメージを作り出してゆく、つまりイメージを変えてゆく、イメージ・チエンジが今後の京都の大重要な問題となるのではないでしょうか。

京都の町のごくごく普通の人達の意識の根底にあるのは、私は道徳だと思うのです。その道徳も、修身で教えられたようなもの、ここ百年で強制されたものではなくて、それ以前の、それこそ石門心学のようなもので培われてきたものだと思いません。例えば、盗みをしてはいけないとか、人に嘘を付いてはいけないとか、お年寄は大事にしようとか、ある意味では当たり前のことなんですが、それが町の中で徹底して伝えられてきている。こ

れは非常に大きな、貴重な京都の財産だと思います。物も大事、神社仏閣も、あるいは景色も大事だと思いますが、町衆の倫理も再評価しなければいけない。これも建都千二百年の一つの方向付けになると思います。

嶋　どうもありがとうございました。老齢化、女性化してゆく社会をプラスの要因にするとともに、京都の培ってきた倫理を再評価しようという、おもしろい話を伺わせていただきました。

続きまして、PHP研究所・専務取締役、江口克彦さんに、「関西コリドール・プラン」ということでお話し願いたいと思います。

いけないのは、やっぱり日本人の教養の基礎となつた京都の町衆の持っている生活規範を再評価しなければいけないのではないか。もちろん、これはうつかりすると、修身復活などということになげられる恐れがありますが、決してそういう意味で言っているわけではありません。もっと基本的な部分で、京都は非常に豊かな教養、文化性を持ち、それを日本全体に形・“もの”で伝えてきています。京都の“もの”は、宝物として地方に伝えられているわけです。

そこで、京都は、その伝統を生かし、暗いイメージは捨て、女性化、老齢化、成熟化、国際化、情報化的進む二〇〇一年を迎えるように未来都市としての道を歩むべきだと思います（拍手）。

開西コリドールプラン

—近畿ルネッサンス！

PHP研究所四十年の軌跡——シンクタンク活動

江口 PHP研究所の江口でございます。私は、プリントを見ていただきながらお話をさせていただくわけでありますが、プリントが全部配り終るまで、この「関西コリドールプラン」（注CORRIDOR＝回廊）というものがどうしてでてきたのかについて、若干の説明を加えさせていただきたいと思います。

PHP研究所の所長はご承知のように松下幸之助でございます。この松下幸之助という人は、二十一世紀の日本及び世界に対して、非常に危機感を持っておりまして、時代というものが本質的に変わりつつあり、その中で従来と同じ考え方でもってやっていってはいけないのではないか、このままでは二十一世紀になりますと、日本、世界とも決して好ましい状況にはなりません、という一つの危機感を持っております。

PHP研究所は昭和二十一年十一月三日にできまして、来年で四十周年を迎える。出版もやつておりますが、本来の仕事・目的は、社会をより良くしてゆくための政策を提言してゆく方策を研究し、提言してゆくことです。

この四十年、PHP研究所は松下幸之助を中心として、「素直な心になるべきだ」ということを

提唱いたしましたし、「思い遣りという心も持たねばならない」というような提言もしてまいりました。もっと具体的には、観光立国という提案をいたしましたし、それから大学は今�数では多過ぎる、半分にすべきだというような提案もいたしました。

最近では、無税国家、税金のない国を作るべきだ、という提案もいたしました。さらに進めて、収益を国民に還元、あるいは分配するというような政府、國づくりをすべきだ、あるいは国土創成というような提案もいたしました。

このような数々の提案は、そのつど新聞、雑誌などで発表されておりますので、皆様方の中にはご承知の方もおられると思いますけれども、冒頭で申しましたように、二十一世紀に対する松下幸之助の危機感が非常に強く、PHP研究所だけではなく、外部の先生方もまじえて、日本及び世界に向けての方策を考え、提言してゆこうということで、昭和五十八年五月、ちょうど二年前の春になりますが、「世界を考える京都座会」という新しい研究グループをPHP研究所の中に発足させ、活動を開始致しました。いずれにしても、二十一世紀を、より良い日本、より良い世界にする

江口克彦

ためにどうしたら良いか、それをみんなで考えてみようということで、その京都座会のシンク・タンク活動を開始したわけであります。

これは今、六つのプロジェクト・チームを持つているわけであります。一つは国家経営研究プロジェクト、これは国家経営・財政を中心にして研究しております。また、二十一世紀は人間観も変わるのではないかということで、新しい人間観のプロジェクトもあります。それから、産業構造の変化についてのプロジェクト・あるいは国際関係のプロジェクト、教育問題のプロジェクト、テクノポリスと国土創成プロジェクトなどの研究プロジェクトを持っております。

総勢四十五人のシンク・タンク活動をいたしておりますが、コアメンバーとして十三名おります。
天谷直弘、飯田経夫、牛尾治朗、加藤寛、高坂正堯、石井威望、堺屋太一、広中平祐、山本七平、渡部昇一、斎藤精一郎、そして座長が松下幸之助

で、私が事務局長でございます。中心メンバーは十三人ですが、先程も申しましたように、様々なプロジェクトをやっておりますので、それぞれのプロジェクトに五、六名の人がいるわけで、したがって、この京都座会は総勢四十五名の先生方に集まつていただいてやつていただいているということになるわけです。それぞれ三年間の単位でやつております。すでに教育問題プロジェクトからは、皆様ご承知だと思いますが、今、臨教審（臨時教育審議委員会）がマスコミにとりあげられておりますが、その臨教審の出発点、いわばバイブルとなっておりますものが、京都座会から昨年提言致しました学校活性化のための七つの提言、これが現在の臨教審のテーマになっています。私どもが、教育の自由化、多様化、競争原理の導入、規範教育の徹底の四つを柱とした提言をいたしました。それが今の臨教審の出発点となり、議論の中心ともなっているのです。

「関西コリドール・プラン」——京滋サイエンスロード

これからお話しします「関西コリドール・プラン」も、こうしたP.H.P研究所のシンク・タンク活動、京都座会の活動の中から生まれてきたものであります。

そして、私どもはこのような提言を順次発表したいと思っています。国家経営研究プロジェクト

では、国家予算を四十兆円に削減し、なおかつ國家経営が活力をもって運営できるような提案をしてみたいと思っています。また、高等教育についての提言もしてみたい。さらに加えて、「関東

コリドール・プラン」を東京で発表したい。各々のプロジェクトからそれぞれ提案がでてくると思いますが、きょうお話しします「関西コリドール・プラン」もそういう過程で生まれてきたもので、決して私一人で考えたわけではありません。

このテクノ・ポリスと国土創成研究プロジェクトには、四人の先生方が入っておられます。主査は必ず一名コア・スタッフから参加するということになつております。東京大学の石井威望先生が



江口克彦氏。「関西をより広く、名古屋、岡山も含めて考える」

なられており、メンバーとして京都大学の天野光三先生、東京大学の伊藤滋先生、帝京大学の佐貫利雄先生、この四人の方々を中心として議論し、その結論が出ました。きょうはその結論をお話ししたいと思います。

私が「関西コリドール・プラン」をまとめるにあたりいろいろ考えたことです。二十一世紀は技術、とりわけ最先端技術の時代になるだろうというふうに考え、その最先端技術の中心、世界の中心になるのはどこだろうかと考えました。それは明らかに環太平洋、とりわけアメリカと日本ということになると思います。そうしますと、日本としては、太平洋テクノ・コンプレックスの中でもっともよく調和する国内体制を整えなければならぬのではないか。そして今後の国際化のプログラムを明示してゆく必要が、日本にとっても、世界にとってもあると思います。

こういう観点から日本列島を見直してみると、日本でのテクノ・コンプレックスの中心地は、関東平野と関西地域しかない。とくに激増する先端技術の量を考えると、二十世紀には東京を中心とした関東平野だけでは充分だと考えられますが、二十一世紀になると関東平野だけでは足らないという予想をたてております。

そうしますと、当然関西地域に目を向けなければならない。後程お話ししますが、先端技術が日本で一番遅れているのは、実は近畿なのです。関西をかなり重点的に今から手を入れなければな

らない。ただ私達は関西を從来の関西と考えておりません。新たな概念を持ち込んであります。つまり名古屋も含めて考えようということです。京都を中心にして百キロメートルを関西と考えるべきではないか。つまり、近畿圏と中京圏を合わせたものとなります。具体的に言えば、名古屋から山陽道、西播磨、岡山までを関西と考えたらどうか。これからは広域ということを考えてゆかねばと思います。県境などは明治時代に決められたものです。それが果して行政単位として有効かどうかは別といたしまして、効率的に技術という観点で考えても、狭い領域ではもつたないのです。むしろ広域でとらえた方が経済的に良いし、経済効率も良いのです。ですから、これからは京都、大阪、神戸とかいう狭い領域で考えるのではなく、少なくとも関西圏という大きな単位で考えてゆく必要があるのではないでしょうか。ただ私共が関西と言う時には、関西のみのために考えているのではないということをお含みいただきたい。それがあくまで日本のために関西が必要なんだということです。二十一世紀の世界を考える時に、京都を中心とした半径百キロメートルのスペースが必要なんだという認識に立っていることを是非ご理解いただきたいと思います。

この頃は関西復権ということ声高に語られることが多いようですが、関西のための関西復権ではなく、一度日本、あるいは世界という観点から眺め直す必要があると思います。

近畿ルネッサンス——「京都一眼レフ構想」

さて、二十一世紀の関西、日本の中の関西、世界の中の関西というものを考える場合に、二十一世紀に関西を簡単につなげることは残念ながらできない。むずかしいという現状です。それはどうしてかと申しますと、近畿圏の活力が著しく弱体化しているということです。

このことを具体的にお話するために、大阪と京都を見てみたいと思います。大阪というのは、高度成長期に長期ヴィジョンというものを適切に作成すべきでした。そして情報基地というものを活性化するという視点で、考えておかねばならなかつたと思います。それをやらなかつたために、政治、経済、国際情報、あるいはソフト情報が東京へどんどん流れゆき、それをくい止めることができなかつた。それが今となつては大きなネックとなつていると思います。

京都は」というと、一部の最先端技術はありますが、ほとんど伝統産業に甘えて、安穏としていた、といいますと言い過ぎになるかもしれません。かつて私は朝日新聞の取材を受けまして、「京都一眼レフ構想」というものを話したことがあります。京都の古い町をそのまま置いておくということは、文化、あるいは歴史の観点からは必要だと思いますが、このままでは京都市は今の飛鳥みたいになつてしまふんじやないか。飛鳥の方には申し訳けないのですが、そう思います。

それでは京都をどのように活性化すれば良いかというと、二十一世紀には京都市はソフトを生み

出すエリアとして考えた方がいいんじゃないかな。南に先端技術を中心とした第二の京都市を作り出せばいいんじゃないかな、というような話をしたことがあります。

それとともに、関西には最先端技術型の業種が非常に少ない。これも問題です。昭和四十八年の石油ショックの後で、エレクトロニクスとオートメーションを追求する新鋭工場の設備投資競争が激しくなつた。ところが、近畿はその時期、ほとんど何もしていなといつてよい程であつた。これは、財團法人、日本立地センターが調査したものであります。そこに最先端技術の各年度別データーが出ていて、昭和五十一年から考えますと、最先端技術が一番多いところは関東で、三十七%。その次は東北で、三十一%。三番目が九州で、七・一%。その次が東海地方で、近畿は七と六・二%です。イベント・オリエンティッド・ポリシーもたいへん結構なんですが、その一方でハードな面、最先端技術のことも考えなければと思います。

近畿ルネッサンス、近畿の活性化をはかる成否の鍵はいくつかあります。一つはエレクトロニクス、メカトロニクス、バイオテクノロジーとか、セラミックなどのハイテク産業、これをリードするソフトウェア、そして生産機能の立地がみられるかどうかが、一つの大きなポイントです。

次に、研究学園都市を国際化の接点として可能ならしめるかどうか、また可能ならしめるアイデ

アがでてくるかどうか。これもあとで触れます。が、今まででは陸の孤島になってしまふのではないと危惧されます。というのは、関西新空港がでましても、研究学園都市まで二時間かかるのです。

三番目に、価値観多様化の中で、関東とは違つた異質の技術というものを考え出す、そして、多様なニーズに応える情報と産業の創造的な受皿づくりをこれからできるかどうか。

それから、四番目に、新しい生きがいを与える

れるような町づくりができるかどうか。

そして、金融、広告、情報、デザイン等の機能をさらに強化し、いわゆる知恵の値打ちを作れるかどうか、ということになってくるかと思います。

京滋奈空港建設プラン——山上の飛行場・垂直の移動

これからお手元にお配りした資料を見ていただけながら説明いたします。まず図2・図3から見ていただきたい。

交通システムを整備してゆくという見地で、京滋奈空港建設プランというものを、まずあげていただきます。これは二〇一〇年の近畿の航空需要が五千四百万人と予想されていますし、また離着陸の一回当たりの昇降客を欧米並みに近づけ、多少の余裕を持たせようとしますと、伊丹の四倍の離着陸容量を持つものでないとダメです。

関西新空港を作るにあたって、神戸沖にも京滋奈空港も作ればと申しますと、それは言わないでほしい、関西新空港を作るのに窮々としているの

この難を解くためには、まず交通網を整備しなければならない。これが、テクノポリスと国土創成研究プロジェクトの一つの結論です。交通アクセスibilityが整備されることがまず必要条件。というのは、関西は世界的にみますと、案外不便なんですね。で、交通システム、交通圏を、何故充実しなければならないかと申しますと、人や情報や文化の交流、金融の円滑化を高めた、あるいは知恵の値打ちを集めた都市づくりを考える時に、交通をきっちり整備しておかないと、どうしようもないんです。そこでこのチームは、交通施設の整備に重点をおき、いろいろと提案をまとめてみたわけです。

に、そんなことを言えば成るものも成らん、といふ批判もあつたりしますが、実はあのようなものを一つ作つても、足らないのです。京滋奈空港を作つても足らない程なんです。神戸沖にも作つて、ようやく欧米並みというところなんですね。

また、京都、滋賀、奈良は、まったく空港の恩恵に浴していない。大阪国際空港からは遠いし、関西新空港からはもつと遠いのです。また、先程申しましたように、京阪奈学園都市からは二時間位かかるということを考えますと、もし世界の頭脳が集つてくる場合、関西新空港から、乗り替えも考慮に入れますと、三、四時間もかかる。こんな所へはなかなか外から人を呼ぶのは難しいと思

います。だから、三十分位で着ける所に飛行場を作るべきです。それが外国人に対する礼儀であり、国際化というのであれば、その位のことを考えねばならないんじゃないでしょうか。

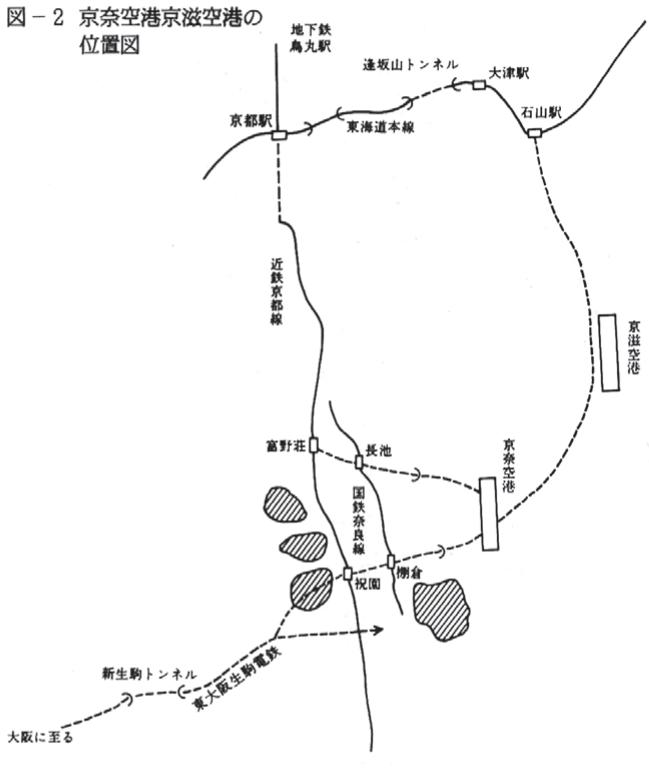
そこで、私達は、研究学園都市の山中に、滑走路延長約三千メートルの国際空港都市を作つたらどうだろうかと考えております。具体的には、飛行機を飛びし、車を走らせた結果、宇治田原町あたりを考えたのです。

図にも書いてありますが、京都、大阪両市と研究学園都市から、非常に短時間で接続できます。

そこで、連絡高速鉄道を考えると、四、五十分位で、直結するものになり、これによって、空港が身近になり、それぞれ便利になる。ところで、この建設費ですが、用地買収、レール・アクセスを除いては、ほぼ一千億円ほどです。これは海上に空港を作る費用の数分の一なのです。

私共の考えています飛行場は、山の上に作られます。標高三百四十メートル、そのうちの二百メートルまで残して上を削ろうというアイディアを持っています。そして削った土を凹んだ所へ運べば、平らな部分はもっと増える。また、何故山の

図－2 京奈空港京滋空港の位置図



図－3 京奈空港への所要時間

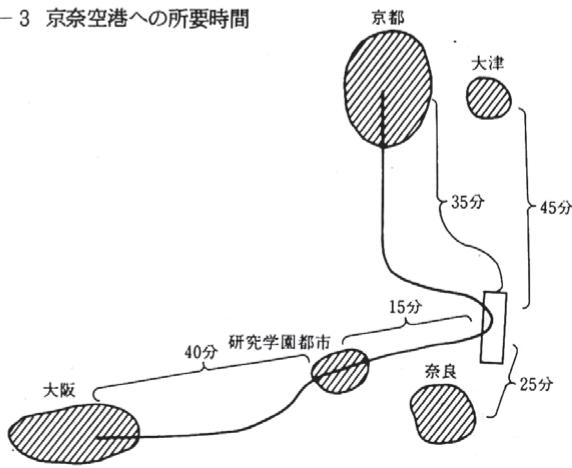
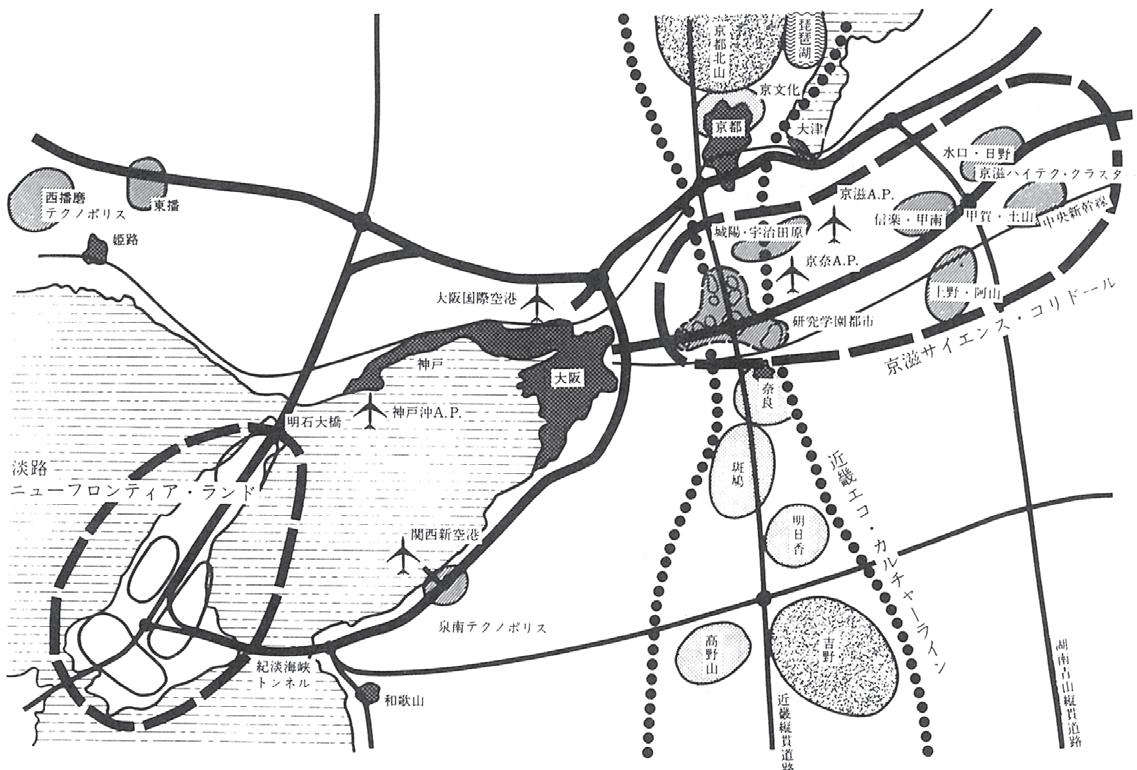


図-1 関西コリドールプラン

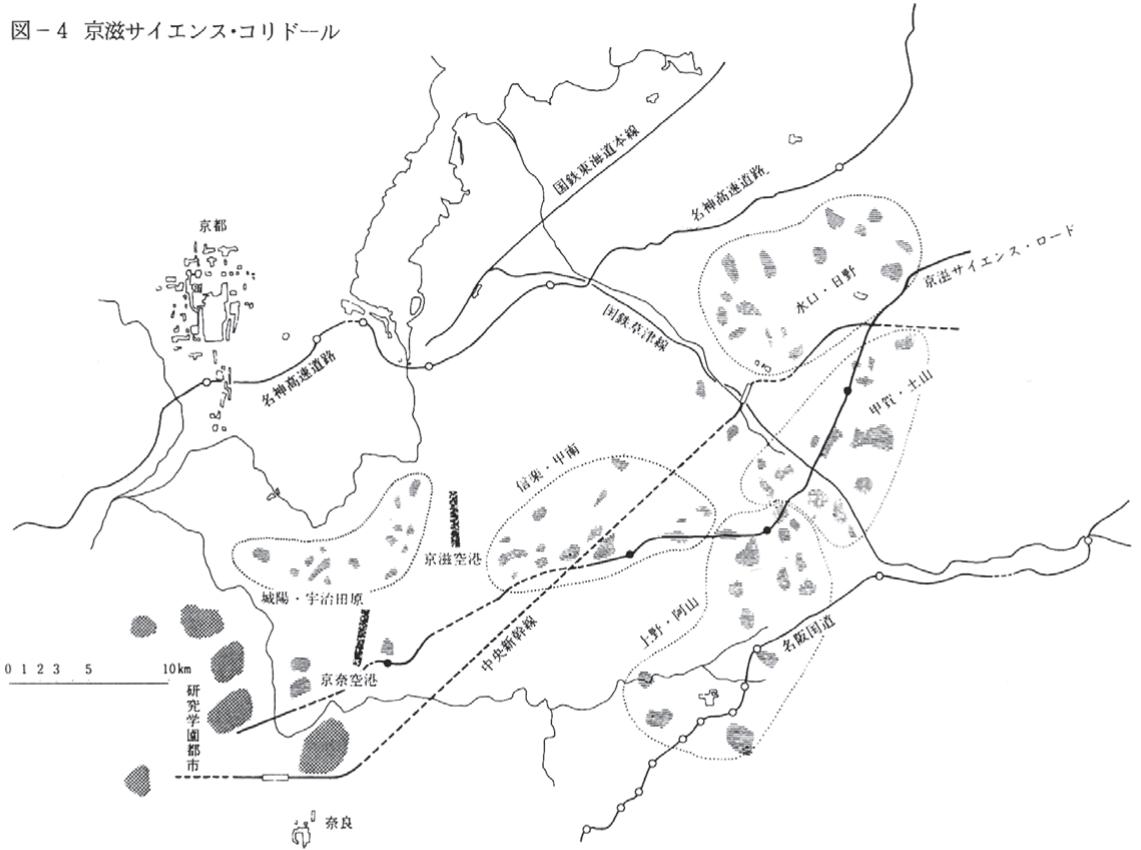


上に飛行場を作るかというと、騒音対策上も良いのです。二百メートル上空に着陸しますから、具合が良い。騒音対策費も少なくてすみます。そして、鉄道は山の下に入れる。山の真下に空港の駅を作るというアイデアを持っています。これによって、新たな上・下の輸送手段も考えてみたい。今は輸送といいますと、水平の移動になってしますが、垂直の移動を新たに技術開発して、京滋奈空港に適用したい。これはまた日本にとっても有用な考え方だと思います。日本は山が多いので、山の斜面を削ったりすることは技術的にも経費の上でもむずかしいそうです。そこで考え出されたアイデアがこれだったのです。

さて、次に図4をご覧ください。京滋サイエンス・コリドール・プランというものを考えています。これは、研究学園都市と空港を結びつける一方、研究学園都市の創造する高度なノウ・ハウを空港から入る世界の最先端情報と結合させ、またアクセシビリティとの相乗効果を考えて、それを城陽市、宇治田原町、信楽町、甲南町、水口町、日野町、伊賀上野市、といった所に最先端技術のベースを作れば良いのではないかという考えです。これを「ハイテク・クラスター」と呼んだわけです。それに、ハイテク産業を貼り付けるのに好都合なことに、今この地域は未開の地といつて良い程さら地が多いのです。

そして、もう一つ。この研究学園都市から京滋奈空港、あるいは京滋空港を通り、水口、日野を経由して、鈴鹿を越える高速道路を建設したらどうか。今、すでに名神高速道路が走っていますが、

図-4 京滋サイエンス・コリドール

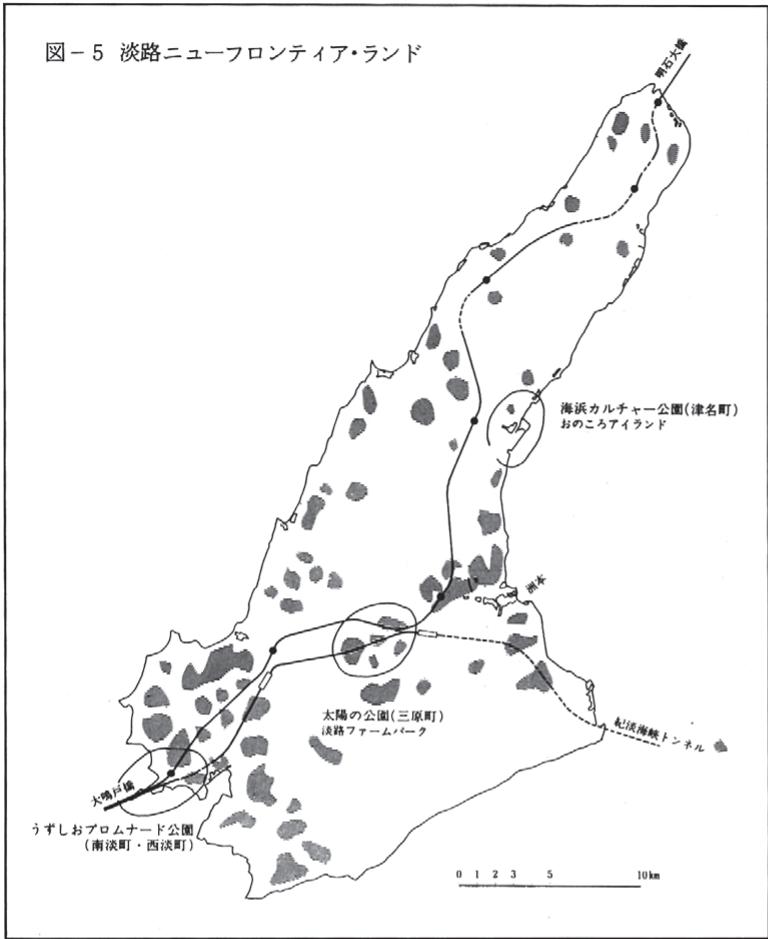


これは雪が多い。ところが今述べましたこの地域は雪が降らないので、雪害がなく、非常に具合が良い。そして、この道路を中心として、ハイテク産業を貼り付ける。これを『サイエンス・ロード』と名付けようといっています。そしてこの高速道路と、リニアモーターカーを中心とした中央新幹線及びその周辺のハイテク機能の集積を、「京滋サイエンス・コリドール」と呼んでいます。

新しい高速道路、第二名神高速道路とリニアモーターカーと空港と「ハイテク・クラスター」、及び研究学園都市を総合的に考えていったらどうだろうか、これが第二の提案です。

それから三番目に、「淡路島ニューフロンティアランド」(図5)というものを考えていました。淡路島というのは、阪神の各都市に非常に近いということ、大阪湾岸と四国を結ぶ交通の要衝になるわけです。しかも、この広大な土地が、今、ほとんど利用されていないということを考え合わせてみると、最先端技術とか、観光開発とか、住民開発とかいうものの可能性が、非常に大きいと思われます。

この淡路島の活用、関西新空港のもたらすアクセシビリティ、相乗効果を活用するためにも、「紀淡海峡トンネル」というものを考えています。このトンネルは建設費の安い鉄道トンネルにしたい自動車のトンネルでは排気ガスなどの問題が多く経費がかかりすぎる。逆に、鉄道を利用し、その上に車を積んで走る、そのようなシステムを考えてもおもしろいと思います。



た明石、鳴門の架橋とによって、淡路島が関西復権に大きな役割を果たすのではないかと思思います。さて、次に、これは皆様もご存知だと思いますが、この近畿地区に集中している文化財は、ちょうど図6のようにクロス、つまり十字形になつてゐるのではないかでしょうか。これを関西コリドールあるいは関西復権を考える時に、活用しない手はないと考えます。

先端技術の進歩、高度情報社会、エレクトロニクスの進歩ということになつてきますと、技術的

社会、どちらかと言えば非人間的社會に傾きがちです。そうなればなるほど、心のゆとりや安らぎを求めるようになります。そして、これが関東にはない強味となるわけです。

この十文字、クロス・ロードを、私共は、「近畿エコ・カルチャーライン」と名付けました。

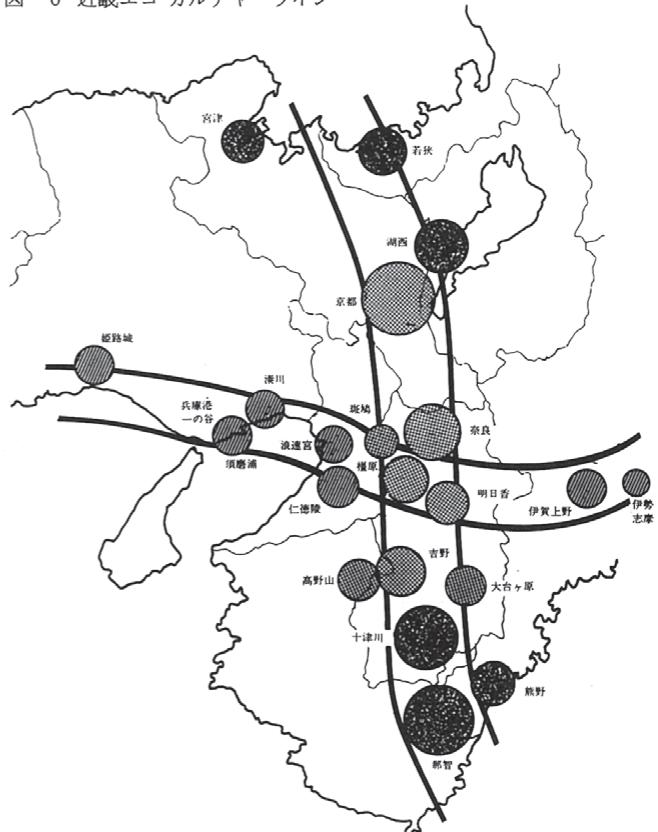
京都を中心に、最先端技術を育ててゆくとともに、精神的な面でも、このクロス・ロードのエコロジカル・カルチャーラインというものを充分に活用してゆきたい。そういう物心両面から、この関西コリドール・プランを考えました。

そして、この全体をまとめたのが、お手元の図1であります。話を省略いたしたものもありますが、今日は「関西コリドール・プラン」ということで、関西を中心にお話ししたわけですが、冒頭でも述べましたように、本当は名古屋も含めての計画です。

大阪湾の中に輪っか状の道路を作ると同時に、名古屋の伊勢湾、三河湾にも作つたらどうだろうかと考えています。そして、この二つの輪っか道路を結ぶ線に、京都のハイテク・クラスターを持つてくるということを考えたわけです。いわば、眼鏡のようなもの、そのつなぎの部分が、京都であり、飛行場であるわけです。ここを中心にして関西の復権をはかる、これが私共の提案です。

遷都千二百年ということで、話題になつていることも多いですが、京都は明治の時に、あの疏水を作っています。これは今でも活用されていますし、生々としたものとなつてもいます。イベントをやるもの結構ですが、それ以上に、

図-6 近畿エコ・カルチャーライン



二十一世紀の疏水づくりというものを、これから京都の人達を中心にして考えてゆくことが、とても大事なことなのではないかと考えます。（拍手）

嶋 どうもありがとうございました。非常に具体的で、スケールの大きなお話を伺いました。
それではこれで午前の部を終了させていただきます。

燃えるプレゼンテーション

気分は二十一世紀

■進行 熊谷 實・平岡隆一

氏名 テーマ

堀江 真造
林 大功
松下 喜晴
尾崎 要
西村 山口
岩井 松尾
南澤 宮井
竹村 昭彦
今川 欣二
山本 次枝
石田 絹江
小山 道子
森本 としろう
河合 玲
平岡 隆一
下田 倫子
黒竹 節人
大矢 和子
和子

新しい都心型大学
日岡(CCC運動)
デザイン博物館
デザイン村

切口

無題

ともろう

秘(まる秘)

姿の文明・デザイン否定論・デザインは、哲学になりえない
多国籍企業

世界で祇紗をつかうようになった
美について

二十一世紀のファッショニ・ロボットもファッショニになる時代

二十一世紀のファッショニ・宇宙旅行、UFOとランデブー

二十一世紀のファッショニ・バイオテクノロジーでシルクファッショニ

二十一世紀のファッショニ・日本人のイベントファッショニ

二十一世紀のファッショニ・グランドデザイン

世紀末ファッショニパート1

世紀末ファッショニパート2

世紀末ファッショニパート3

世紀末ファッショニパート4

大矢

黒竹

下田

和子

刃金 和夫 世紀末ファッショングパート5

野村 伸哉 嵐城野再現

新商品開発

伝青トリオ

新商品開発

二〇〇七年意思形成のためのデザイン開発プロジェクト

デザインバンク待望笑論

十五年前に考えた私の京都未来像

世紀末とデザイン

新しいお茶を求めて

気持が農業されます

花火

小堀 僚 構想

京都ループライナー構想

在り得ぬことではありません。

熱い熱い想いが渦巻いた、「燃えるプレゼントーション」。二分三十秒というごくごく短い時間内に自分の想いをぶつけるプレゼンター達。そこでついつい非情のベルの音も聞こえぬかのように、三分、五分も喋ってしまった人・人。時間通りに終えたのは、何とたった三人。ということで、この貢、非情のベルにも増しての非情さで、三十二名のプレゼンターを十六名にカット。さらに話の内容を、スゴーク面白かった人は多く、まあまあだった人はそれなりに、これは「フムフム」と思えた人はそのところのみを、編集の勝手気儘、身勝手に、まとめてしまいました。何卒、ご容赦のほど——御願いタテマツリマスウ——。

KDKの「京都に女性市長、誕生!」なども、

森野純亘氏のデザイン・バンク構想などももう具体化する日は近いのかも知れませんし、小堀脩氏の京都交通事情打開策「ループ・ライナー構想」も、必ず実現することでしょう。

みなさん、ほんとに気分はもう二十一世紀、弓削氏のおっしゃる如く、京都にパッと花火、あげてみてはいかがでしょう。ぐずぐずしていると時代が人を追い込んでしまいますヨ。

林 大功 (日図)



私たち、今、CCC運動というものを展開しております。クリエイト、コンフィデンス、コミュニケーション（創造、信頼、交流）、この三つの頭文字をとって、CCC運動。このCCC運動は東西相通ずるものがあるようで、CCC運動の展開の一環として私どもが行ないましたニューヨーク展は、大変な盛況でした。会場となりましたFIT（ニューヨーカッショント工科大学）のマービン・フェルドマンさんも、CCC運動へご共感を示されました。

CCC運動の核は美です。この美をもって社会を構成し、新しい時代、美の時代を築こうというのが、私どもの運動です。

南澤 弘 (KCC)

私は、「国際工芸博・京都」の開催中に、会う人ごとこういう質問をしました。

「工芸とは何ですか？」

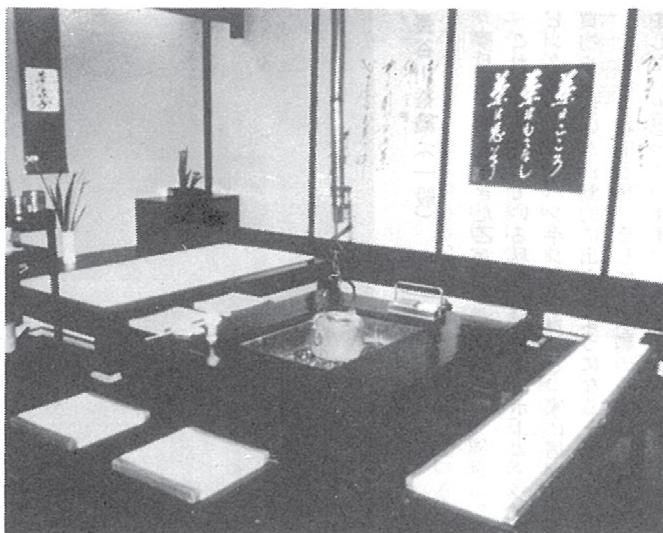
「工芸という言葉を定義してみて下さい」

この問に対し殆どの人は答えてくれませんでした。おそらく現代人はこの質問に答えられないのです。こんな単純な質問が、現代では一番難しい質問となってしまつたのです。



井上六平（I C C）

お茶屋でございます。お茶は人ととの出会いを仲立ちするものだと私は考えています。人と人との触れ合いの場、サロンの演出にお茶は欠かせぬものです。



弓削徳和（一般）

私は京都の花火大会を復活させたいと思っています。花火は伝統です。祭です。古都京都に花火は必要なのでしょう。

どうか、みなさん、夏までの間、「花火、花火、花火」と言ってみて下さい。そうすれば花火大会は復活するのです。

河合 玲（K D K）

KDKは今年で創立三十年を迎えました。先程話題になりましたファッショニオン党を結成して女性市長を誕生させたいというのも、KDKの夢の一つです。



尾崎 要（日団）

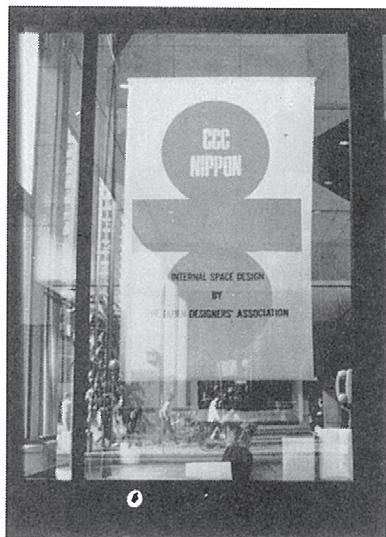
私は北山をアーティストの町にしたいと思っております。現在でも七十人ほどの、テキスタイル、グラフィック、クラフトなどのデザイナーが、スタジオ、或いは自宅を北山に持っています。

みなさん、北山へ集まりましょう。

松下喜晴（日図）

日本図案家協会は、博物館事業として、子供展や日本の文様の起源である。吉祥図の展覧会を企画してきました。

この日図の博物館が二十五周年を迎える世紀末には、現代デザイン百年の計として新たなデザイン博物館を作りたい大きな計画を持っていました。



長谷川香織（一般）

夢見る年頃を過ぎた乙女（？）の夢はー。

これは買物をしている私です。将来はホーム・ショッピングやホーム・キャッシングが普及し、家に居ながら、買物や支払いが自動的に出来るようになると思います。それから在宅勤務。そして、余剰の時間は私は畠仕事をしていきたいと思っています。



小山道子（NDK）

現代はまだ、シルクは高価で高級なイメージが強く、洗濯もドライクリーニングでないと無理だし、日常生活には不向きな点が多くあります。しかし二十一世紀になると、大量のシルクが出回りますし、第三次元の組織というものが発明されようとしています。



平岡隆一（NDK）

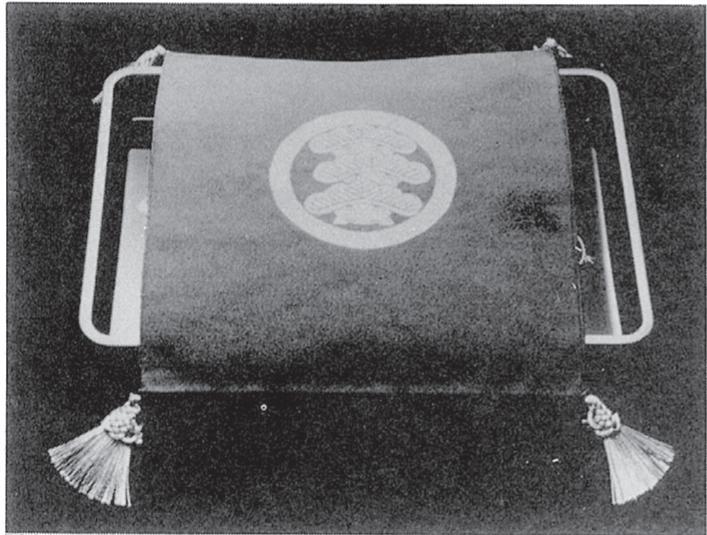
僕の考える一九九九年九月某日。ひょっとするとそこ頃、総ての人が軍人になっているかも知れない。すると僕らがデザインする服はアーミー・ファッションかも知れません。これは恐いことですが、考えておかなければならぬ問題ではないでしょうか。





竹村昭彦（KCC）

私は袱紗屋でございます。二十一世紀のギフトコミュニケーションに、袱紗は少なからず貢献すると考えます。袱紗や風呂敷は日本の偉大なる発明であり、同時に、心のある、思いやりのある、ギフト表現になつてていると思います。



堀江眞造（京都市）

私は新しい都心型大学というものを、京都にさらに集めてゆくことを提案したいと思います。

最近では、筑波大学、中央大学が郊外へ出てゆきました。京都でも、同志社大学、平安女学院に移転計画があるようです。しかしながら東京では、最近、都心に超高层の大学を作ろうではないかという声が聞かれるようになつてきました。ここ数年のうちに、都心型大学といつたものが要望されるのではないかと考えます。



下田倫子（ＮＤＫ）

私は十五年後、丁度五十歳。出産と子育ては、老後の楽しみにとっておこりやないかというのが私の考えです。忙しい今、社会に要請された仕事をしている中で、子育ては大変なことです。ハッピー・ハウスと名付けた老人ホームで、仕事を終えて、次の生甲斐として子育てに専念する、これが私の夢です。



奥田広幸（ＫＤＡ）

この絵を見て下さい。一八七一年（明治四年）に、すでにこのような奇異な建物が立っていました。当時の人にとっては我々が今感じる以上に奇怪な建物であったでしょう。江戸時代には三階以上の建物は許されていませんでした。現在の情況はこの明治の頃に似ていると思います。



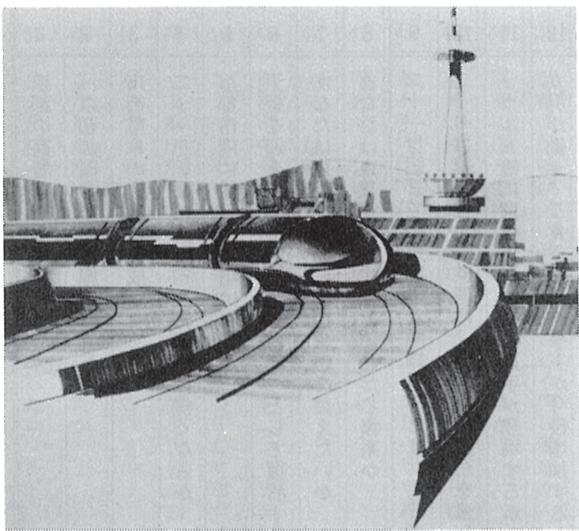
小堀 優（京都府）

私は京都の新しい交通システムとして、ループ・ライナー構想を提案したいと思います。

京都は一辺十キロメートルで、四十キロメートル四方に収まっています。ところが、その周りを車で回ろうとすると、十キロメートルですと、普通なら十分から二十分位で済むところが、京都では二時間もかかるてしまう。そこで、東山の方は裏側を回り、清水寺駅、東山ドライブウェイ駅を作り、そこから地下トンネルで約六百メートルの遊歩道を歩いてもらう。

或いは、比叡山の真下に、地下停留所を作り、三分で延暦寺に着くことが出来る。

建都千二百年の年の一月一日に着工し、一九九九年十二月三十一日に竣工する。総事業費は三千億円株式会社京都市民ループ・ライナーがこの構想を動かします。この会社は市民一人が一万円を出支して作る会社です。



森野純亘（KDA）

私の夢はデザイン・バンクを作ることです。そこでデザイナー・バンクの事業内容を三つの部門に分けて考えてみました。

第一の柱として、デザインの預金部門を考えました。デザインはまだまだ機械化がなされていません。人海戦術の比重が高いのです。そこで考えました。自分の余裕がある時に、他者のデザインをやる。それを預金という形で預けておく。自分のデザイン業が多忙になった時には、その預金を引き出す、という形で、他者にデザイン・ワークをお願いする。

第二の柱として、登録部門を考えました。この部門はデザイン、商品アイデア、事業プロジェクト、人脈情報などを登録し、意匠登録、特許などを取り、権利を押さえてゆく。そして、これを企業にPRし、売り込んでゆく。

第三の柱は事業部門。京都には有能な団体がたくさんありますので、その会員を紹てもらい、スタッフとして登録する。こうなりますと、世界一のデザイン会社が設立されるということになります。

さらに営業スタッフを充実させ、各企業にスタッフを売り込んでもらおう。もちろん京都だけではなく、大阪、東京、ひいては海外へ。

何年先のことになるか、まだ解りませんが、このデザイナーたちが動いているとも聞きます。

先手必勝、今、私たち、デザイナーは思い切って行動せねばなりません。夢にも色々あって遠い夢、近い夢、様々ですが、デザイン・バンクは近い夢だと思います。

みんなで押せばコワくない

ホンネまるだし 京都まるごと スイッチ・オン

■司会進行 本郷公盛

本郷公盛氏の軽快な話術に乗ってこり出した。
「みんなで押せばコワくない——ホンネまるだし京都まるごとスイッチ・オン」。大人たちの面白遊戯。毎回想うことですが、デザイン関係八団体の横の繋がりは、ジャンルを外した故の予期せぬ出来事が起こる、異能発見の場を生んでいるようです。

大人達も、もっと遊びたい。但し大人達の遊びは本気も本気。しかし同時に、あの懐しい「道草」精神。子供達が忘れた「道草」をいい大人達は行います。毎年一回、三月の大人達の「道草日」。異能集団の祭です。

さて左の表にあらわれました如く、いい大人達は「いつでも夢を」持ち、手に汗かきましてスイッチを握り、一所懸命ボタンを押しました。以下はその実況報告一言感想（示した番号は表の番号です）。

1	京都の高層都市化に賛成か	42
2	「京都鎖国令」の実施に賛成か	11
3	市街電車の復活に賛成か	51
4	二十一世紀には京都市街の電柱は無くなるか	53
5	京都市内に横断歩道橋は必要か	33
6	天皇を迎えて京都は再び「首都」として復活するか	23
7	あなたは京都以外の地に住まいを替えたいか	16
8	あなたは京都定住三代以上にわたる家系か	46
9	二十一世紀までに京都に女性知事または女性市長が誕生するか	44
10	二十一世紀を担う子供達に、あなたは何かを遺し伝えるものがあるか	83
11	ソウル五輪に京都出身の出場選手が登場するか	52
12	女房が働き、三食昼寝つき亭主が今後増加するか	61
13	新しい仲間が集まつて週末パーティーを自宅で開くことがあるか	53
14	あなたは自分の主義をもつて社会に参加しているか	85
15	国際文化都市・京都の人間にふさわしく、あなたは外国語が話せるか	28
16	あなたは常にプロ意識をもつているか	84
17	あなたには変身願望があるか	68
18	あなたは何かに「奉仕」したことがあるか	80
19	ポルノ解禁・フリーセックスを支持するか	49
20	あなたは「流行」には誰よりも速く参加するか	40
21	あなたはクレジットカードを五枚以上所有しているか	10
22	あなた自身の未来を「占い」に頼ることがあるか	26
23	あなたは市バスのシルバーシートに座つたことがあるか	43
24	誕生した子供の名付けはあなたがするか	73
25	プロ野球に血が騒ぐか	52

③市電復活論者の多いことは、あのゆつたりとした気分への郷愁ばかりではないはずです。デザイナーは“都市”を見ています。スピード化だけが、合理化だけが、都市作りの基本ではありません。都市機能にはもっと、深い何かが求められるべきです。

⑥京都にとって“天皇”とは——空なる器^{きらうつわ}、御所の存在とは何か——このことはもっと具体的に取り組んでもいい問題ではないでしょうか。

⑧さすが京のデザイナーは幾代もの祖先の歴史を背負っています。ここが京のデザイナーの強味でしょう。

⑨伝統的かと思えば革新的、京はまことに面白不思議町。

⑯変身願望——司会の本郷さん、確かに去年は女性の艶やかな姿を披露したのでは?

㉑カードライフの時代と言いますが、いかにも今様生活者の、今西さんも今だにキヤッショカードの使い方が解らないとか。そこがいいんですね。

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26
24	61	69	80	23	81	78	26	69	45	75	64	26	77	52	39	77	56	12	68	64	69	75	43	15
あなたは人の不幸を喜ぶタチか																								
あなたはナウい人か																								
あなたはコンピューター・オンチか																								
UFOや宇宙人の存在を信じるか																								
神を信じるか																								
あなたは京都に骨を埋めるつもりか																								
東京の若者にうけている「チョコレートうどん」が京都でもハヤるか																								
問題の古都保存税の強行実施に理解を示すか																								
活字文化は二十一世紀でもいま程度に残るか																								
「科学万博つくば'85」はテレビ見物で充分か																								
デザインのプロ・アマの差は将来もっと縮まるか																								
京阪神三都市の中で、京都がいちばん活性不足だとと思うが																								
京都市が第二のコベになることは好ましいか																								
京都の伝統産業は過保護だという声に賛成か																								
京都は若者の街ではなく、老人の街だと思うか																								
あと十六年で二十一世紀。現役でパリパリやれる自信がありますか																								
丹波ワインは伏見の清酒に勝てるか																								
キモノはこのさき生きづけるか																								
京都市中をオールドシティ、南部をニューシティとする構想を支持するか																								
二十一世紀に向けて京都を「KYOTO」とローマ字化に賛成か																								
モノ輸出時代から日本の文化・情報を世界にぶつける時代に来たと思うか																								
あなたはカラダにいいこと何かしているか																								
あなたは昨年の伝統工芸博に行つたか																								
あの伝博イベントは京都を刺激したか																								

(29) 京には祇園会（祭）という御靈信仰がありま
すからUFO、宇宙人なんて新参ものです。

(34) もしこの世から活字がなくなつたら——「言
靈」^{だま}という言葉があるように、それは人間の存在そのものの危機と言えるのではないでしようか。

◎難しい問題です。

(40) 京都というのは冷たいようで、ヨソヨソしい
ようで、実はヌルマ湯的にいい気分でいられる
所なんですよネ。ただこのことをもつてして京
の未来の不安もまたある訳ですが。

④着物は着る物の原初の形。日本人の智恵です
デザイン的にも極められています。

⑯京の魅力は“形”だけにあるのではないはずで、す。“気”をもってすれば、“京都”という商品はもっともっと高く売れるのではないでしょうか。但し、切り売り、叩き売りはご容赦を、

⑧昨年、一昨年も提議された“デザイン市長”。

51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	51	
京都にはホモセクシユアルを認めるか		あなたはホモか、またはレズか		あなたは現在、不倫の恋をしているか		京都から新しいファッショングループの波が起るか		あなたたちは戦時中の記憶があるか		「女の時代」だと本気で思うか		ゴキブリは二十一世紀でもはびこるか		このところ快食・快眠・快便が続いているか		ネクラ・ネアカに人を分けると、あなたたちはネアカか		今朝の基調講演で歴史家・森谷先生のお話に共鳴できたか		文化人類学の米山先生のお話に共鳴できたか		P.H.P・江口専務のお話に共鳴できたか		「燃えるプレゼンテーション」は全体にレベルが高かったか	
そのために個人でも協力する姿勢があるか		未来は自分たちの力で線路を敷くのか		京都にはパリのように世界中の文化人がもつと住んで欲しいか		それとも自分たちの子供に積極的にやらせたいか		信頼できる友人をたくさんもっているか		いま、テレビの中継録画をしている。後日放送のテレビを見るか		二〇〇一年夢のカレンダーの中で京都未来事項の実現可能性を信じるか		マスコミを信じるか		京都の観光ビジネスは、じり貧になると思うか		ホモセクシユアルを認めるか		あなたたちは精神的にリッチだと思うか		あなたたちは戦時中の記憶があるか		京都から新しいファッショングループの波が起るか	
52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	52	

㉙これは当然。ここに再現出来なかつたのが残念至極。もし、本郷氏の話術の世界を体験したい方は、実況テープが事務所に保存（未来カプセルとして土中に埋めておくという案も出たかな？）されておりますので、ぜひ、お葉書にて、聴取申し込みを。



76	京都の未来を力強く引っ張るオピニオンリーダーが現在いると思うか	京都の文化団体は連帯すべきか	京都の財界人は文化度が高いと思うか	京都で活躍する一〇〇人と日本で活躍する一〇〇人との集いをもつのは賛成か	京都発・世界で活躍する一〇〇名の里帰りをプラスして三〇〇人の集いはどうか	自分は活躍する京都人と思うか	いま、スイッチを押しているのは面白いか	今日の会議に参加して意義があつたか	夜のパーティーに参加してくれるかな	ボクの司会に好感がもてたかな？	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76
81											86	72	68	58	59	78	74	45	77	81	27

舌戦トークショード

「京都冒険談合」

コーディネーター 今西 慧

日産サニーカー京都販売株式会社
株式会社ジャパンクラブ 社長

清水輝久

経済ジャーナリスト
『京都ベンチャーズ』著者

竹内 令

京都から、そして京都へ——売る男と、見る男の射程は

今西 企画スタッフの一人の今西でございます。コーディネーターということでございますけれども、今回どういう組み合わせを致しましたかと申しますと、先程「スイッチ・オン！」の質問にも答えましたように、活字文化は二十一世紀までにノスタルジーになっているのではないかと私は非常に悲観的なのです。けれども今のところ私達は

活字情報に頼っておりまして、昨年末から今年のお正月にかけて京都の本屋さんを歩いてみましたところ、あらゆる本屋さんのいわゆる新刊コーナーにスタッフの非常に面白い本がございました。ひとつはKBS京都から発刊されます『京のきょう・あすの京』（京都の明日を考える会編）という四角い本でございます。その本のコーディネー



今西慧氏。面白人間、ケイさんの司会で「京都冒険談合」出発。

ターというか、その前一年間「京都」というテーマでKBSでオンエアされていたのですが、そのコーディネーターがこちらの清水さんでいらっしゃいます。もう一方の竹内さんは、『京都ベンチャーズ』（ジャテック出版）という、これもその頃ベストセラーになっていたのですが、京都のベンチャー商法、ベンチャービジネスというものをブックした本がございまして、その著者でいらっしゃいます。出版社に電話をかけましたら、現在埼玉県にお住まいだということで今朝お来し戴いて、今はじめてお会いしたんです。

清水さんは日産サニー京都販売㈱、つまり自動車を売ってらっしゃる会社のオーナー、社長でございます。と同時に、一方で㈱ジャパンクラブという新しい情報センターのようなものをお考えになって、かつ北山にジャパンクラブという建物そのものをメディアと考えたものを作りになつた方です。いわゆる京都市的企業家ではないわけです。また竹内さんは科学あるいはエネルギー関係のルポライター、経済ジャーナリストでございまして、京都出身の方でもないわけです。たまたま大学が立命館ということをございます。で、これからお話を戴くことは、そういうお二方がそれぞれ別の考え方で京都というものをどのようにお考えになつておられるかということでござります。

今日はジャーナリストの竹内さんが聞き手、聞き役としても専門家なので、お二人にマイクを渡してやつて戴こうと思います。

まず清水さんの方から。いわゆる自動車屋がジャパンクラブやつとのやと京都弁まる出しでお話

を戴いておりますので、その辺がこれから京都とどのように関係していくのか、自分がお考えになつてることを勝手にお話を戴いて、それを竹内さんが衝いて戴くということでお願ひしたいと思います。

では、清水さん。年配でもございます。われわれ、竹内さんと私は同世代でございますので、昭和一ヶタの清水さんからまずお願ひします。

清水 先程ご紹介戴いた清水でございます。年配で大分何回か言われたので、私自身あまり年寄りとは思っていないんですけどもご覧戴いたら竹内先生の方がちょっと（笑）…、こう申しまして何を話させてもらうのか全然わからずに来て失礼になりますが。しかし私は今日ここへ来て何かちょっとと話していくことを增幅受信されたようで、ともかく出てきて話して下さいということで、自身がここへ出させて戴いたのは、变化の時代に新体験を持ちたいと言っているから、思つてはいるからであります。難しく言えばそうですが、要するに好奇心の塊として、いろんなところでいろんなことをやってみたいと思っております。

先程の今西さんのお話ではこのトークショーは付け足しみたいなもんやうことですでしたが、折角出てきましたし、皆さん方もお疲れのところを辛抱して時間を費してもらいますんで、私なりに提案というとおこがましいんですけども、私の考えてることを京都にからめましてお話しして、いろいろなところで議論戴いて考え方の輪を広げるとい

ますか、そういう方向へ行って戴けたら非常に有難いと思つております。

このデザインというのは私何もわかりませんが、他人の真似しないようなものを創り出して行こうというお仕事をされるんだと思います。つまり時代の最先端をいく頭脳集団の皆さん方だと思いますが、その皆さん方が私の考えているあることにについてどのようにお考えなのか。といいますのは、ひとつは私自身も最近いろいろな変化がありまして。私の仕事は自動車関係ですが、工業社会の最先端たる自動車産業、自動車工業といいますか、そういう機械とかモノとかいうんでなしに、産業構造が人間中心になつてくるちゅうことから様子が大分変つてきました。で、人間が本当にうまい具合に暮していくってのはどうということかといふので、その場合、社会の仕組も今までと全く違いますし、変化していくわけですからそこにいろんな議論が出てきてますけど、私自身の考えで申しますと、これは多分独断と偏見なんでしょうが、次のようなことになります。

例えば、どんないいデザインでいいものが作られたとしても、また形のないもの、一つの仕組が作られて、街づくりといいますか、京都の再構築つていいますか、そういうものが考えられてそれが具現化されても、日本の存立自体がはつきりせんとあかんのやないか。これがひとつ最初の問題としてあると思うんです。それは、誤解を恐れずにいいますと国防問題だと思います。日本は現在ソ連を含む欧米先進国の仲間入りをしているわけで、現在のこの豊かさをいつまでも維持し続け

ていくことは多分不可能ではないかと思います。そうしますと、もうすぐやつて来る地球の総人口六十億のうちの五十億を占めている欧米先進国以外の発展途上国とのように仲良くやっていくかということが結局一番大きな問題になつてくるのではないか。それについて、時間もそろいませんので、結論として一つ提案を申し上げます。

皆さんもご存知のよう、京阪奈学術研究都市が出来ます。ここにやはりニュータウンと申しますか、ハイテク都市と申しますか文化ゾーンが出来上つていくと思います。その場合いろんなグランドデザインといいますか、デッサンといいますか、総合的な企画が立つてくると思います。現在私の持つております情報ですとすでに1/3くらいはそこで誰が住んで何をするかということがはっきり決まり、何かやらんといかんなという気分が高まって企画も進んでる。そこで、いわゆる発展途上国の若い人達に三、四年住んでもらつて快適に生活しながら日本のいろんな技術を見て勉強してもらい、日本の若い人達や皆さん方とも話し合える交流の場。フレンドシップゾーンのようないものを造ることが、やはり日本の存立というか、存続を考える時に大変重要なつてくるのではないかと思います。つまり人間の和で日本を守るといいますか。アメリカやソ連はさておいても武器だけで自國を守りきれるというようなことはけつしてありえないでしよう。日本の存立という問題を私のようなもうすぐ死んでいく者より、若い人達にもっと考えて戴きたいと思います。



清水輝久氏。はんなり京都弁で、情況を明解に斬る業師。

清水輝久氏は、京都の交通問題について、以下のように述べています。

次に京都について。京都が今後どうなるかという時に提案を二、三僕は持っているんです。それは何かと言いますと、京都は都市のインフラストラクチャーの整備、つまり都市の基本的な基盤、機能の整備が非常に遅れました。そのため人間が住むということ、つまり生活し遊び仕事していくのに大変不便な街になっています。その最たるもののが車です。こう申しますと、自分の商売から言うとるんやなあとになりますが、あまりそんなことは考えてないんです。しかし車抜きの生活というのはまだしばらくは考えられないんじゃないかな。ところが現在の京都では車はもう邪魔になってるとか、要らんとかいうことになってきたるんじゃないかな。というのは車ていうのは、御承知のように通る道が必要です。また走りっぱなしでは何の役にもたちませんから駐車場設備的なものも要りますが、通運といいますか交通というかその辺の都市としての道路事情が京都は非常に具合が悪い。これを改良するために現在いろいろと考えられていますが、京都の場合、規制条件が多いですから川の利用ということをもつと考えるべきなんじゃないかと思います。で、川底の地下に、例えばある部分から南へは大阪へ行くトラックが通り、ある部分から北へは観光バスが通る。そういう川の利用がひとつ考えられると思います。もうひとつは、私は嵯峨野に住んでおりますが、嵐山周辺へ土、日曜日に来られた方は皆ご経験があると思います。わずか一キロ足らずのところで二、三時間もかかる程交通渋滞している。嵐山のように風光明媚なところへはたくさん観光客が

来られます。けれどこの渋滞には大変困っておられると思うんですね。そこで川の下流に、上野橋か松尾橋かどつかあの辺に河川敷を利用した大駐車場を作つて、パリのセーヌ川を走つてのバトーミーシュ（有名な遊覧船）のようなものを走らせる。こういうことが具体的に一つの都市の再活性化につながるんじゃないかと思うんです。半分程度の道程は山紫水明の嵐山を見て走るわけだからいいんですけど、あと半分は川原を見て走るのは具合悪いというのなら、メキシコのハガターに野外博物館がいろんなオブジェを並べていますが、それと同じことを、美大の先生か生徒に頼んでいろんな美術的な作品を野外博物館のような形で並べてもらう。そうしてデザインを考えてもらつたバトーミーシュを走らせればいろんなことが解決するんじゃないでしょうか。

話は元にもどりますが、川底を利用すれば観光バスは皆地下を走つて京都を南へ降りてきます。観光地は北にありますから、今のところ観光バスはそれぞれ伝統産業に従事される方達が仕事され日常生活されてる中を、市内を走つてます。そやから京都の場合は都市問題の最重要課題である道路も、産業道路、生活道路の他に観光道路というのも考えなならんという条件をもつてているわけです。そういう意味でも川底の利用は非常に有効な方法のひとつではないでしょうか。この川底を堀つてそれができるという頭脳集団は京大に道路工学の日本の権威佐々木綱先生もおられますし、可能だと言つておられるのですからそういうものを作つて戴く。

密教的バランス感覚は一つの活路か——都市を包み込むもの

もうひとつ今非常に問題だと思っているのは、テクノロジーが進んでいきますと必ずテクノストレス症候群といいますか、それに対しても心の病気が出てくる。アメリカはそれを近代医学、精神科医で対応しているわけですが、日本ではそういう風にはやってけない。アメリカの方では掛け付けの精神科医を持つことがステイタスだと言われていますが、日本ではそこのお嬢さまはお嫁にも行けないとというようなことにもなりかねません。その問題を解消するためのひとつの手段として音楽というものがあるんじゃないかな。映像というものがるんじゃないか。で、トンネルの暗がりの中を走る場合、所要時間は十五分か二十分でしょか。その間にテクノストレス症候群を治療するような音楽とか映像がそこを流れる、見せられるとか聞かせるとかいうことも考えられると思います。そしてまたその繋がりでいいますと、川は京都の北部でいろんな方面に別れますが、それを繋ぐのはやっぱり北山。その山の上に道がつく。そこに薬草園ができるとか、そういう風なことがテクノストレス症候群に対する治療に繋がっていく。そこがまた開けていく。

金剛界と胎蔵界という仏教用語があります。金剛界というのは、大日如来を慈悲の面から説いた部門です。胎蔵界は大日如来を慈悲の面から説いた部門です。胎蔵界といふれば、それぞれ男性原理と女性原理ということになります。この場合道路は男性原理の具現

であり金剛界ですが、それだけではダメで薬草園や音楽、映像といった女性原理でそれを包み込むことによってはじめて人間中心の社会のインフラストラクチャーといえるのではないでしょうか。金剛界と胎蔵界のバランスが、建物にしてもインフラストラクチャーにしてもやっぱり大事なんやと思います。こんな考え方を持っておりますが、私が余り最初に長くしゃべってもなんですので。私、具体的にデザインという仕事わからんなりにでも協会の名前なんか見させてもらおうてます。そこでお仕事される方に考えてもらいたいことは、私が今述べたようなことを考慮に入れて、その地域に具体的にお住みになつての取り組まれてる仕事を通じてデザインを行なつてほしいということです。例えば京都駅南側の都市開発のような形、要するにそのゾーンに住んでる人の意見がひとつもないまま、周りに住んでる人だけでこうしたらしいのとちやうかとか、この都市のデザインはこうすべきだとか、いうのではなく、そこに住んでる人も含めて皆で考えて行くという方法が必要じゃないかと私は考えてるわけです。

今西 長いこと有難うございます。ところで竹内

さん、今度のご本をお書きになるので、いわゆる京都のベンチャーやビジネスですか、京セラさん「株キヨーセラ」、立石さん「立石電機(株)」も含めてトップとお会いになった中で、清水さんと同じような考え方をなさる方もいらっしゃるのかどうか。そんな事も交えて、清水さんの御意見もちょ

つと援用して戴きながら京都のいわゆる新しい企業家とはどういうものなのかについて伺いたいのですが。

ローカリティーの精神構造——京都を探るために

竹内 まず前提として清水さんの話は非常にレベルが高くて国防問題まで出てくると、この後僕はどのように話をすればいいのか戸惑うような状態です。去年の十一月の暮れに僕は『京都ベンチャーズ』という本を出して京都駿々堂を中心に置いて戴いたんですが、実はあの本は東京で売ってほしかったんです。ところがどういう訳か東京出版販売とか日本出版販売とか大きな取次店が回した本屋は京都が中心だったわけです。その実態を見て僕はローカルだなって感じがしたんです。つまり出版社の方は僕の本を全国的にとらえるんじゃなくてあくまでも京都ものローカルものという発想で配本してくれたらしいんです。それにいささかがっかりしたんですけども、京都を取り材してるとときに京都の人達は京都という街はある意味では日本の中核都市なんだということを何回も聞かされているんです。事実僕もそのつもりで本をまとめたんですけども、実際流れてみたら京都中心だった。京都をローカルという意識で捉えられていた。その辺が今日のテーマになるかどうかわかりませんけどもひとつの考え方の材料にはなるんじゃないかと考えています。

先程今西さんから、いろんな京都の経営者たちにお会いしてどんな感想を持ったか聞かれたんですけども、まず第一に京都の経営者って実にいる

みんながいると思うんです。僕はだいたい十人はどの社長さん方にお会いしたんですがそれぞれ印象深い人でした。例えば気違いのような稻盛さん。京セラの稻盛さんですね。それから胸をはってがんばってるというんですかね、実力以上のことをやっているなって思ったのが、正直に言います。ワコールの塚本さん。そしてこの人は何となく僕の好きなタイプの人なんですけども、堀場製作所の堀場さん。それにわれわれの大学の先輩で、ロームという非常にいい会社があるんですよ。ロームの社長の佐藤さん。この方はプロのピアニストを目指して猛烈に勉強されていたのですが「毎日音楽コンクール」に落ちて事業家になったという変った経歴の持ち主の方です。一方、何がなんでも京都だと叫んでる方が日本電産の永守さん。それに今日ははじめてお会いした清水さんも含めて、そういう風にいろんなタイプがいるわけなんです。ただ共通して言えることは非常に若い経営者だということです。立石電機の会長さんなんか歳は八十ぐらいですか。もうちょっとといつてますか。しかし考え方そのものは非常に若々しいものをもらおられるわけです。そういう意味で京都という街は非常に若い街、古い街じゃなくて非常に若い街という印象を、経営者の方々から感じました。その程度でよろしいでしょうか。



竹内令氏。「京都はローカルか、或いは文化センターか」

それから一つ質問してよろしいでしようか、清水さんにお伺いしたいんですけども。先程非常にいいテーマが出てきましたね。身近な問題としてちょっと話して戴けませんか。京都日産販売ですかサニー販売ですか、自動車の販売会社では大きな会社ですし、清水さんは京都では立志伝中の人がまだ期待できるのか。もし期待できないとと言われてるらしいんですけども。実際自動車を売っていて京都の街で自動車販売産業というものがまだ期待できるのか。もし期待できないとすればどういう理由なのか。その辺をひとつ話して戴けないでしょうか。

清水 それは私の本職のことなんで、あれなんですが。私も車が好きで車のディーラーをやりまして儲からん商売でえらい目に会うてるわけなんですが…。現在都市型の、京都もその一つなんですけども、ここでは車がなくても暮せるような状態にありますから、ある意味では車はもうこれ以上は要らんのではないかと思います。それに、これは自動車自体の問題なんですが、メーカーの怠慢だと思いますんですけども、アメリカという国でアメリカ人向きに便利な道具として創られたものをそのまま日本に持ち込んだ訳です。勿論少し小さくして仕上げもきれいにし、ガソリンも喰わないで故障もせずによく走るように、ある程度完成されはしましたが、日本のように雨の多い国での駐車機能というんですか、日本本来の考え方ならん雨への対策のような部分を落としています。また機能を現在の自動車は余り持っていないから、そう

いう機能の点で改良されてくれはある程度対外需要も伸びると思います。しかしそれ以上に台数が増えるということは私は考えられないですね。

それに、現在、車をこれ以上増やすことには問題があつて、どちらかと言えば交通整理といいますか、そういうものを強制的にやらざるを得ないようなところまで来てるんじゃないかと思います。

京都の場合は、旧都心、東京でいえば環状線の内側ですね、その旧都心の中で伝統産業などの仕事をされてるところは材料の搬入とか出来上った商品の搬出とかいろんなことで、都心に住まれて

る方はやはり車を使って生活も仕事もされてるわけです。そこへ他所から周囲から車で入って来て用足して出ていく人、観光で来る人もごちゃ混ぜになってるわけです。この状態ちゅうのはやっぱり、例えばどつかの国で今現在やつてるようになんバープレイトの末尾が奇数の車しか今日は走れない、そして明日は偶数とか。また外から入つて来る車はどうかに駐車場を設けてそれ以上都心に入つてこれないうようにするかわりに、都心へは他のもつと便利な交通システム、新システムを用意するとかして対応しなければいけないよう思います。

竹内 それで自動車と都市機能、インフラストラクチャーですか、の関り合いが非常に強いということがよくわかります。先程清水さんがおっしゃったように京都は他所から来た車が北の観光をするのに京都の中心部を通らなければならぬというのがその交通混雑の大きな材料のひとつになつてゐるわけですね。

話は少しそれますが、先程清水さんが特に京都駅前南側の開発に関連して都市開発のデザインについておっしゃってましたけど、京都という街は古い街、つまり伝統的な街、歴史のある街でありますと同時に、一方では近代的なハイテク産業に携わる新しい技術者たち、それから本当に、タバコ産業を専門にやってらっしゃる京都生粹の方々と、新しい発想と知識を持った人との噛み合わせ、組み合せと言うんですか、それが京都の町の各場所で違った表現をもつていて。それぞれ違う特色を出しているから京都の街づくりというのは難しいし、そこがネックになると僕は思うんですけどね。なぜそんなことを言うかというと、京都の街づくりはインフラストラクチャーの整備をするにしても規制事項が非常に多いでしょう。

清水 おっしゃってる様子に街 자체にしても人間においても確かに二極分解のような形だと思いますけど。例えば人間だと携わっている産業による気質の違いだけやなしに、その人の個性といいますか、いろんなことに対処する取り組み方といいますか、そんなことでも両極分解してます。気違ひじみた先走りを馬鹿みたいにする人とそうでない人という風にね。しかしやはり京都はこのままでだめやないかと、皆何となく考えてられ

ると思います。例えばコンピューターという新しい商品ですね。今まで人間がかつて手にしたことなかつた画期的な商品ですけど、これが仕事の中に取り込まれてこなければ今やどんな仕事もできなくなってきたんじゃないかと思うんです、たとえ伝統産業であっても。それを活用する場合、一番ポイントになってくるのはそのシステム、ネットワークと、そのバランスなんです。だから今までは両極分解してます人達がそれぞれでバラバラにやってても都市そのものはなんとか持ち堪えるといいますか、発展したかもしれませんけども、これからはやはり両極端にある人達がシステムティックにやってますか、ネットワークを構成せなあかん、そういう形で融合せなあかんと思います。

子供の玩具に合体ロボットがありますが、合体というのはそれぞれの部分が独立した機能、特色を主張したまま組み合わさったものですから子供の世界ではそういうのもいいと思います。しかし、われわれ大人の場合はやはり合体からもう一步進んだ形、それぞれの部分が一体となってそれが独立していたときにはもつていなかつた新たな機能、特色を生み出す融合という形までいかなあかんのじやないかという風に感じてます。

京都のパワーを見る——原理としての「京女」

竹内 そうですね。いま非常に興味深いお話を出たんですけど、こういう話題というのはとかく人間を表に出すと非常に理解しやすいし、ある意味

で面白いと思うんです。京都の、京都人の二極性ですか、大人しい面と、また一方で、どういう表現をしていいんですかね、じゃじゃ馬のような、

例えば清水さんのような暴れまくる人と二通りあると思うんですね。インプラス・トラクチャーの話で出た金剛界と胎藏界ですか、言い換えれば男性原理と女性原理ということになるらしいですが、

先程の意味とは少しズレるかもしないですが、そのような原理の二極性が人の場合にもあるかもしませんね。そういう意味で非常に面白いと僕が思つたのは京都の女性です。

僕は昔の京都の資料をちょっと調べてみたんです。京都の女性、京女というんですか、京女は非常にてるらしいですね。今日いらっしゃって

女性はきれいな方が多いなと、これは御世辞じゃなくてそういう風に僕は思つたんです。歴史を見ていきますと、京都の女性の方は非常に活動家が多いんですね。例えば井上八千代さん、服飾関係では藤川、名前なんでおっしゃるんですかねえ、

藤川服飾学園の創業者（藤川延子氏）、それから株式会社市田の市田八栄子さん、売春審議会の大浜英子さんとか田辺繁子さん、それから女流バイロット第一号の雲井竜子さんですか。京都にはそういう活躍する女性が非常に多いんです。彼女たちは言ってみれば一身でもつて男性原理、女性原理の二極性を体現してゐるといえるんじゃないでしょうか。今は女性の例をあげましたけど女性以外でも非常に革新的でやる気のある人が京都には多いんです。また会社なんかもけつこういい会社が多いわけです。それが東京ではなぜ目立たないのか疑問なんですが、メディアとの関りという問題もあるでしょう。こういった非常に活動的な人達や会社をうまくコーディネートしながら京都の活

性化といいますか、今も活性化してないとは僕は思わないんですが、京都の街づくりに生かしていくようないいアイデアはないですかね。

清水 その辺は一番難しいところだと思りますけれどね。現在ちょっととしたキーワードで女性とおしゃっておられる。で、集積技術、ICOといいますか新素材、ICOチップの新素材、そしてバイオですね。これは皆京都ですね。先端技術と女性は確かにおっしゃったようにいいわけです。それに反して、東男に京女ちゅうように、われわれ京男はダメですね。

竹内 でも、京都は素晴らしい学者が出てますけどね。

清水 学者ちゅうのは多分に女性的なんじゃないでしょうか。そう言つたら学者の中には怒る人もいるでしょうが。

その集積回路、集積技術ちゅうのは幕の内弁当やいう人がありますが、京都の料理技術ちゅうたら幕の内弁当やし、ICOてのはセラミックで京セラさんもありますし、清水焼もありますからね。ニーセラミックスというものは、そのうち現在石油で出来てるものをほとんど全て、それを超えて全部セラミックにしてしまうやろうし、地球上の表土の1/4は珪石で出来てるわけやから、いくら資源がないと言われて日本でもフルに使えるわけです。バイオですとやはり宝酒造があります。現在アメリカが七年先進であるように言いますが、人間のために本当に役立つ普遍化の段階では、僕は必ず日本が抜くと思いますね。その段階でもやっぱり京都との繋りというのは非常に強いでしょ

し、そういう意味でやはり僕は今の内に京都のいろんなところで先程おっしゃったように、革新的でやる気のある人達をうまくコーディネートして草の根運動を起こすべきなんじやないかという気がするんです。

今西 そうですね。

竹内　バイオは宝酒造とか京都はいい会社があるんですね。タキイ種苗、これもバイオに最近ものすごく力を入れてるんですけども、こういった新しいものに取り組む積極さといったものを僕は京都の経営者から感じるわけなんですね。ところがよく見るとそれは京都だけじゃないんですよね。福岡の経営者も礼幌の経営者もそれぞれに考えてるわけなんです。そういう姿勢は立派にあるわけなんです。ところが京都はそういう意味ではちょっと目立つんですね。なぜかと言つたら、結局、僕は立命館を出たんですけども、京大とか同志社とかそうした大学との交流が密だからだろうと思うんですね。ちょっと疑問が出たらそれを大学の先生にパツと聞きに行ける親近感ですか、それが京都にはある。またその特徴をうまく生かさなきやいさんとも思うんです。ただそういう意味では京都の人っていうのは僕は恵まれてると思うんですけどもいかがでしょう。

かんとも思うんです。ただそういう意味では京都の人っていうのは僕は恵まれてると思うんですけどもいかがでしょう。

清水 それは確かにおっしゃる通りですね。それも京都という土地のもつ好条件の一つですが、他にもこの土地柄のせいで随分得をしてるようなんですね。

現在は特に文化の時代とか言われてイメージというものが非常に大事にされていますね。そやから京

都の場合はそれがために損もし足もひっぱられてると思いますが、つまりデメリットの部分もあるわけなんですけど、やはり永い歴史でいいますか蓄積されたものがありますから、それが大きなイメージを形成してるようなんですね。例えば自分の仕事の話で恐縮なんですけども、京都というのはマーケットとしては、日産自動車の石原社長にしたら二・一%ほどのマーケットなんですね。大阪を仮に六・五%のマーケットとしますと、二・一%のマーケットやつたらその1/3の力でいいのかっていうと違うちゅうんです。とにかく京都はやっぱりイメージ・マーケットなんだ。だから日産自動車で言えばフェアレディなんだと。フェアレディといふのは日産の世界へのイメージとしての商品といいますか、そういう意味で京都に力を入れていいんです。日産自動車が京都でどうなるかというのは常に最大の課題ですよと、こういう話を終わけなんです。だから現在一番重要視されてるイメージという部分でやはり京都は随分得してると思いますが、それをうまく生かす方向に行かなあかんのやないかという気がしますね。

竹内 そうですね。素材、素材というのは材料の素材だけじゃなくて人間の素材、知識の素材、いろんな素材があると思うんです。けれども、そのイメージというのも含めて素材という点では京都という所は本当に恵まれた所だと思いますね。

僕もそれは同感です。ただ先程清水さんがおっしゃったようにそれをどう生かすか、それがこれから的一大問題になってくると思うんです。

ところで僕は一つの疑問をもつてゐんですけど

も。それは京都の街は、京都人は閉鎖的だとよく言われる。言われてますね。僕もしばしば耳にしたことがあつたんです。しかし経営者連中を見るに実は閉鎖的な経営者と閉鎖的でない経営者がいるんです。実際会ってみてそういう感想をもつたのですが、これまた二種類に分かれるわけなんですね。閉鎖的でない経営者といえば京セラの稻盛さん、ワコールの塚本さん。あとは本当に閉鎖的というか余り京都から出たがらない。ただし出るとなると一足飛びにアメリカへ跳んじゃうんですね。

そういうケースが多いと思うんです。情報というものは京都にもどんどん集つてくるけれども、客観的によく見た場合には、日本国内だけを考えると東京は情報の収集一大基地だと思うんです。そういった東京との交流、東京の経営者やその他の東京のいろんな人の接触交流、それを京都の人たちはどの程度もつてるんだろうか、そういう疑問をもつてるんです。どうなんですか。

清水 そうですね、現在の日本は全てがやはり東京中心型に動いていて、それが地方へ分散しなければいけないと書いてますが、現実はやはり東京型です。その場合に広報でいいですか、広報活動の部分で京都の人ちゅうのはましい面を持つてます。体質的にもつているんですね。というのは、京都人にとって東京ちゅうのは、僕もそう思ってるんですけども、田舎の人より集りで文化的には京都より後から開けた所やから「大きなこと言つな」て感じ持つてるらしいんです。で、私も二十年ほど

ど、毎週一回くらい東京へ行つてますが、いまだに京都弁のまで押し通してるわけです。しかし、京都の街を活性化させるためには現在の状況から考えて東京への広報活動をもつとやらなあかんと思います。それともう一つはやはり政治がらみですね。京都の場合政治家っていうのを、京都を本当に理解し愛していくしかも発言力もある政治家っていうのを育ててないといいますか、持つてない。つまり中央とのパイプがないわけです。この辺もひとつ大きな問題だと思います。

竹内 そうですね。それは僕も感じます。最近塚本さんが、京都サミットですか、京都にサミットを招こうというんでいろんな人に声をかけて応援してもらってるわけなんです。例えば堤義明さんがその近くにホテルを建てるとか。これは素晴らしいことだと思うんです。それは民間人が先に走ってるわけです。その京都サミットに対して京都府、京都市あるいはそれに携わってる代議士先生連中が、まあ京都府はちょっと別にして、政治家がどの程度掩護射撃をしてるか。あるいは京都サミットに限らず、京都は儀典都市であつてほしいとか、京都に国際イベントを作ろうとかいった企画が出た時に代議士がどの程度強力に応援してくれるか。いいですね。目立たないです。その辺が京都活性化の一つの欠点になると思いますね。むしろいやらしいと思うんだけど田中角栄みたいな、あいう人が出てくると非常に京都のためにもプラスになるんじゃないですか（笑）

清水 そういう点では政治家だけやなしに学者も悪いんです。悪いと言うと語弊があるかも知れませんけど。

京都学派っていいますかね、学者グループの存在価値、先程おっしゃってたのは大変なプラス面ですけど、マイナス面も持ってるんです。仮にいる学者がその地域の人達の、例えば経済的活性化、

社会的活性化ってな部分で、結果が良かつたらそれでいいやないかということで手段を選ばずに、例えばマスコミを利用してもという風に動こうとしますと、そういうのは京都の学者に言わせれば学者の風上にも置けんということになるんじやないでしょ。そやから、例えば経済界とか政治の世界とかとの繋りよりも純粹に学問的レベルを上げることの方にこそ意味があんのやというような気風が京都の学者にはあんのやないかという気がします。これは誤解かもしませんが。だから政治家を動かそうとしたとき、例えば中曾根首相を、今の日本では総理大臣、首相の権限はあまり強くありませんが、そうやと思わせるだけのことがやるのは京都の場合経済界ではなくその京都学派以外にはないじやないかと僕は思ってるんです。京都の経済界にはそれだけの実力者はそんなにおらんわけですから。ところが、そんなことするのは学者の沾券にかかるといったそんな気風があんのやないかと、僕はそんな気がして仕様がないですね。

竹内 純粹に学者つてレベルでは京都学派ですか。だから本当に政治的な動きをするのは沾券にかかる。そう思ってるのが理想的なんかもわかりません。

せんね。だからノーベル賞がとれたと思うんですけども。東京大学の先生連中は、ある意味では完璧な産学共同というよりもタレント的な匂いを感じさせるような学者が、全部が全部じゃないですけども、けっここういるわけです。京都の先生方には少ないです。本当に、こう、学者というイメージを受けますね。

清水 余り言うと怒られますからちょっとと誉めときますと、京都は東京と違いましてちょっとと講演出たらん十万円入るかとか、ちょっととした企業からお金もらってお金儲けに繋がっていくということで落ちついて勉強が出来ないということがないわけでして、一生懸命勉強しはりますから（笑）好きで仕様がないという風に勉強しはるわけです。しかし、それがそれじゃ京都の市民のために役立つことに何かなったかちゅうとなつてませんですね。先程ちょっと紹介しました本を、私、あんまりいい本やと思ってないんです。あれをいい本やと言わなんだら佐々木綱先生怒りますから、あれいい本や言うてますけどね。やはりその辺が大きな問題じゃないんですね。そういう点を学者の先生にも考えて戴いて、またあの本もそうなんですがKBSにももうちょっと努力してもらわなあかん。もっとローカル・データベースの構築に力を入れて東京へ向けて京都の広報活動をしなあかんと思うんです。

竹内 自己満足だけの仕事、ビジネスあるいはデザインもそうだと思うんですけども、俺はこんな立派なデザインを創ってる、それだけじや意味な



西脇友一氏。閉会挨拶は一応のディ・エンド。

いわけですね。何の役にも立たないわけです。おそらく今、学者と京都ということに関連して話をしていると思うんですけども、それをよく実現させるための方法は、清水さんもおっしゃってるようになります。京都が得意としてる文化情報、学術情報を広報を通じて東京あるいは他所の地域にどんどん訴えていくということ。こういうことは僕はどんどんやってもらつていいと思うんですよ。

今西 ちなみに清水さんはKBSの番組審議会の会長なんです。

清水 いわゆる高度情報化社会の後に何が来るかまだわかつていませんが、高度情報化社会というものは、僕はそんなに永いこと続かんと思います。しかしその間のつなぎ的には高度情報化社会といふことになって、その場合にはメディアっていうのは非常に大きいウエイトを持ってますしね。そやからKBSも本当に京都の人たちのためになるような方向でね。例えば、京都のKBSは、ここへディレクターも来てますし撮影も来てはんのやから気イ悪うしますけど、実際、広告取ろうとしますね。ところがいい番組出来へん。人が見てくれへん。そやから広告主がお金出さんのです。また、出したい広告主があつても経済的なパワーがないから広告出せない。このままやと悪循環です。で、宣伝広告してええ番組作って、そんでまたいいスポンサーを取るつちゅう考え方を捨てろて僕は言つてるわけなんです。そのかわり街でお店やいろんな集団がいろんなイベントやるのは、とにかく無料でいいから撮ってきて広報活動に力を入れると。現在けつこう貧乏な会社ですが新しい機

械も持つてゐるわけです。そうするとお店が儲かってくれば今度は宣伝広告もひとりでに増えてくると。

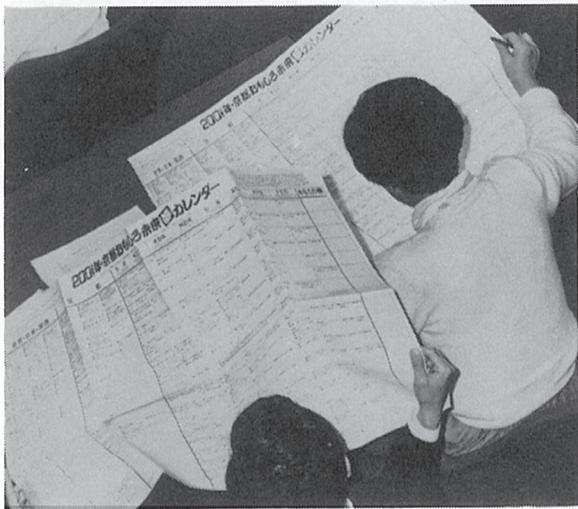
今西 時間が少し詰つてますので。竹内さん、先程からしゃべってらっしゃる清水さんについて。自動車屋であつてジャパンクラブという一つの組織あるいはメディアをお持ちのこの企業家について、最後に短くコメントして戴いてまとめにしたいんですが。いろんな企業家にお会いになつていかがでしょう。清水さんにはお会いになつてまだ一時間少々でしようけど。

竹内 清水さんがKBSについてお話になる以上に難しいですね、お隣にいらっしゃるから。でも僕は清水さんて方は京都の経営者の中でも非常に革新的というんですかね。新しいものに何でも飛び込んで行こうというちょっと無茶なところもあると思うんですけど、やはり情報産業という新しいメディアに対する取り組み方はおそらく京都でも一番じゃないでしょうか。姿勢、つまり実際にジャパンクラブとかいろいろなものを作つてゐるわけなんですね。本当の京都人というのはひょっとしたら清水さんじゃないかという印象を受けました。

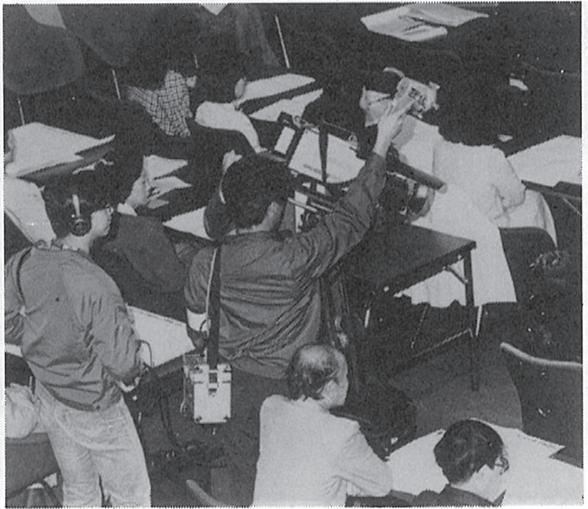
今西 ニュー京都人ということで清水さんに御登場戴いたわけです。それから埼玉から竹内さんになって戴きました。また竹内さんの本も出るそうですからお目にとめられまして、KBSの本とともに御愛読戴きたいと思います。突然ですが時間が参りましてちょうど五時に終らせて戴きたいと思います。

■付録

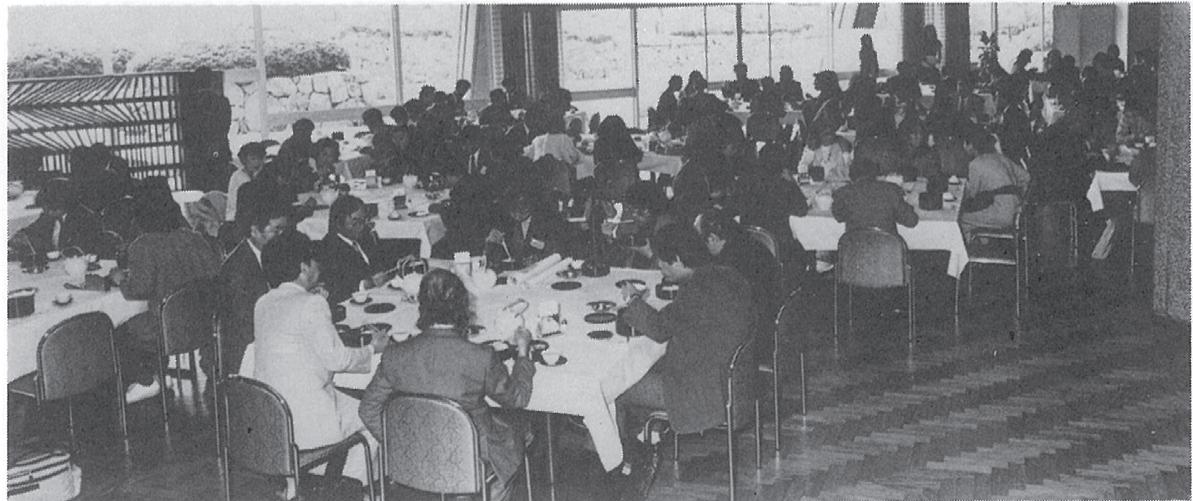
会場風景・スナップ



「2001年、京都おもしろ未来夢カレンダー」オモシロソウ。



今回はテレビカメラが回りました。みなさいしさか緊張。



午前の部が終わって、昼食。いやあ、お腹も空きます。なにしろ年に一度の大人達のお祭騒ぎですから。幕之内弁当、足りました？



堀江眞造氏。京都市伝統産業課長



山田耕三氏。京都商工会議所 商工振興部部長



乾杯！さてお酒が飲めますヨ。エンエン十時間、みなさまゴクロウサマ。また来年もヨロシク。左端、戸田與謝さんはもう常連。



きれいに装った人も、そうでない人も、ヒゲヅラの人も（久谷政樹さんです）、食欲モリモリ、ウタゲ、ハナヤカ、マッサカリ。



さて、ラストチャンス。あなたは写っているかな。中央の美人が気になりますが、カメラマン（藤城鉄也さんです）、好み、かな？

第五回 京都デザイン会議・参加者名簿

■社団法人 日本デザイン文化協会 京都支部 (NDK)	玉岡美和子 平岡 隆一 下田 優子 木下 昌美 藤本 信輝 工藤 国子 高瀬 肥子 刃金 和夫 藤本 則次 仲 絹子 久田知世子 阿部コオイチ 黒竹 節人 桜田 雅文 大矢 和子 熊谷 實子	今西 慧 西脇 友一 岡本 百合 岩坂 精三 奥田 広幸 本郷 公盛 森野 純亘 宇野 文夫 田辺 栄一 若林 恩地 藤田 賴伯 柴田 献一 宮川万樹夫 沢井 敏子 久谷 政樹 松本 司頌 山本 次枝 西辻 和子 森本としろう 辻 美菜子 山本 次枝 西辻 和子 宏昇	玉岡美和子 平岡 隆一 下田 優子 木下 昌美 藤本 信輝 工藤 国子 高瀬 肥子 刃金 和夫 藤本 則次 仲 絹子 久田知世子 阿部コオイチ 黒竹 節人 桜田 雅文 大矢 和子 熊谷 實子	今西 慧 西脇 友一 岡本 百合 岩坂 精三 奥田 広幸 本郷 公盛 森野 純亘 宇野 文夫 田辺 栄一 若林 恩地 藤田 賴伯 柴田 献一 宮川万樹夫 沢井 敏子 久谷 政樹 松本 司頌 山本 次枝 西辻 和子 森本としろう 辻 美菜子 山本 次枝 西辻 和子 宏昇	■社団法人 京都デザイン協会 (KDA)	京都服飾デザイナー協会 (KDK)	京都クラフトセンター (KCC)	協同組合	谷口 智子 弘智子 大田 晃秀 景子 北川 博三 木幡光三郎 森 勝久 旗持 宏	上田 年子 中橋 貞子 河合 玲 石田 絹江 塩山 秀子 松原 醇子 小山 道子 本 啓史 須田 須磨子 水谷須磨子 森本としろう 辻 美菜子 山本 次枝 西辻 和子 宏昇

■社団法人 京都国際工芸センター（I-C-C）
■京都インテリア産業協会（K-I-S）

■社団法人 京都国際工芸センター
■京都インテリア産業協会 (K-I-S)

(—CC)

■京都伝統産業青年会 (KDS)

大江 マリエ 戸田 與謝 井上 六平

林 暁子 橋本奈良一 川島 春雄

■社団法人 日本国案家協会（日国）

津守山口
順晴司敬一
尾崎大石
要浩司藤原銀次郎
西村片桐日比
好雄嘉正昭彦

林 堀 朝雄
大功 繁夫 喜晴
哲司 松尾 茂久 捷之
松下 岩井 喜晴
松尾 茂久 捷之
萩尾 井上

一般参加

日根野祐子 弓削徳和 藤本圭司 岡村宏 西原安子 福島登 柴田富佐子 小林正三 国枝克一郎 賀古義男 井上貴志 中川路誠 中井賢一 松本一郎 山口真希子

南出喜与次
森岡 草野 猪子登季子
宮井 一騎
誠 幸子
竹内 荒川 西尾
久保田 池田 一平
公規 敏彦 ハル
明子
土肥 吹田 小田 河村 庄司
輝夫 明子 順子 俊信
和子

■御招待

西田常夫 山田耕三 西野恭司 上羽章夫 堀江真造 古郷彰治 小堀脩

京都府染織工芸課長
京都府商工部染織工芸課
京都市経済局伝統産業課長
京都市経済局伝統産業課係長
京都市経済局伝統産業課
京都商工会議所商工振興部長
京都商工会議所商工振興部次長

菅原中根堀和田
亮清弘昭政

京都商工会議所理事商工振興部主事
京都商工会議所理事商工振興部参事
㈳総合デザイナー協会専務理事
神戸デザイン協会理事長

(敬称略・順不同)

第五回 京都デザイン会議・実行委員会

第五回 京都デザイン会議・実行委員会 構成及び名簿

主催	橋本奈良一
主催・後援・協賛団体名簿	森本としろう
	本郷公盛
	熊谷實
	尾崎要
	(KDA)
	(NDK)
	(KDC)
	(KCC)
	" " "
	" " "
	" " "
	動員運営委員会・委員長
	副委員長
	委員

(順不同)

第五回 京都デザイン会議・会議録

発行・昭和六十年八月三十一日

編集・京都デザイン会議実行委員会

西脇友一・西川照子

事務局・社団法人 京都デザイン協会

〒六〇五 京都市東山区祇園町北側二七五 A B L三階

電話（〇七五）五四一一〇二三九

印刷製本・田中プリント

京都銀行

京都信用金庫

京都中央信用金庫

伏見信用金庫

